

2019年度 L2-Tech水準表 Ver.1.02

2019年度 L2-Tech水準表 Ver.1.02（2019年12月）

- 本水準表の作成にあたっては、カタログ等、企業が広く公表している資料及びWebページを中心に情報を収集し、当該技術に専門的知見を有する有識者からもご意見をいただきながら、科学技術的・客観的観点から情報を整理しています。
- 本水準表は、2019年12月までに収集した情報をもとに作成したものであり、今後も情報収集を継続するとともに、ご意見をいただき更新・充実させていく予定です。

項目	主な記載内容	
L2-TechリストNo.	設備・機器等ごとにIDを付番。	
区 分	以下のように、エネルギー源を示した「部門」軸と、エネルギー技術を原理・しくみの違いで整理した「技術」軸に区分。 部門1: 当該設備・機器等の導入可能性の高い部門 部門2: 当該設備・機器等の利用可能性の高い用途、業種、プロセス、輸送手段、エネルギー種別 技術分類: 設備・機器等のカテゴリ(基本的な原理・しくみの種別) ※参照: 環境省「日本の約束草案要綱(案)」、国立環境研究所「日本国温室効果ガスインベントリ報告書」、エネルギー戦略協議会「エネルギー技術体系」、日本エネルギー経済研究所「エネルギー・経済統計要覧」	
設備・機器等	設備・機器等(システム、設備・機器、部材等)の名称を記載。2050年までに80%の温室効果ガス削減という目標に向けて、環境省がCO2削減に重要と考える設備・機器等(カテゴリ)を、「CO2削減効果」及び「導入可能性」の観点で選定。	
原理・しくみ	設備・機器等の原理・しくみ、またはCO2削減に資する原理・しくみの説明を記載。	
クラス	認証の単位となるクラスを記載。購買の選択条件に応じて、条件(仕様、付加機能等)及び能力(加熱能力、発電出力等)で分類。	
認証対象	2019年度L2-Tech認証制度において、募集対象となる設備・機器等を「○(または●*1)」、募集対象外の設備・機器等を「- (ハイフン)」として記載。 *1 簡易申請の対象となり得るクラス(条件・能力)に付与(詳細は、実施要領等に記載)	
L2-Tech水準表情報No.	クラスごとにIDを付番。	
L2-Tech水準	L2-Tech水準を記載。本水準は、指定された試験条件に基づき測定された結果を、指定の計算方法によって算出した値である。本水準は、2019年11月時点における値であり、かつ収集できた情報のうち最高性能の値を採用している。なお、「*(アスタリスク)」が付与されているクラスは、根拠資料として試験結果報告書の提出を受付可能であることを示す。(詳細は、実施要領に記載)	
指標	測定単位	L2-Tech水準の単位、及びその名称を記載。
	評価方法のタイプ	以下のいずれかから、効率性能の評価方法のタイプを記載。 標準規格による評価: JIS等の国際・日本標準の規格、または省エネ法等の法律に準拠した試験条件及び計算方法によって評価する方法 標準条件による評価: 規格化されていないが一部で標準条件として用いられている、または標準として業界と合意した試験条件及び計算方法によって評価する方法 シミュレーションによる評価: 標準条件に基づき、実試験ではなくコンピュータ上で模擬試験を行うことによって評価する方法 具備機能による評価: 一定レベル以上の機能を具備しているものを評価する方法
	計算方法	性能の計算方法について、準拠すべき規格または具体的な方法を記載。
	試験条件	性能を評価するための試験条件について、準拠すべき規格または具体的な条件を記載。
備考	特記事項等を記載。	

記号の使用方法

本リスト中の「-」、「・」及び「/」は、下記を示す。
「-」: 対象項目に該当する情報が存在しない、非対象、調査中、または不明。
「・」: AND条件。 例) 空調機(ヒートポンプ・個別方式) → (ヒートポンプかつ個別方式の)空調機
「/」: OR条件。 例) 空調/産業用プロセス → 空調または産業用プロセス

2019年度L2-Tech水準表の正誤表

更新履歴

Ver.1.02更新 (2019年12月11日) : 編集上の誤りのため修正

Ver.1.01更新 (2019年12月9日) : 編集上の誤りのため修正

【Ver.1.02/2019年12月11日更新】

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	変更概要	正(赤字が修正箇所)					誤(取消線は削除)						
	部門1	部門2	技術分類			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	測定単位		備考	認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	測定単位		備考
									単位	名称					単位	名称	
L-000994	産業・業務 (業種共通)	動力他	変圧器	モールド変圧器	L2-Tech水準を修正	●	S-005246	183	W	全損失	—	●	S-005246	149	W	全損失	—
L-000994	産業・業務 (業種共通)	動力他	変圧器	モールド変圧器	L2-Tech水準を修正	●	S-005243	368	W	全損失	—	●	S-005243	268	W	全損失	—

【Ver.1.01/2019年12月9日更新】

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	変更概要	正(赤字が修正箇所)					誤(取消線は削除)						
	部門1	部門2	技術分類			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	測定単位		備考	認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	測定単位		備考
									単位	名称					単位	名称	
L-000977	産業・業務 (業種共通)	産業用プロ セス	ボイラ	水素ボイラ(貫流ボイラ)	認証対象及びL2-Tech水 準を修正	○	S-005738	90	%	ボイラ効 率	—	=	S-005738	=	%	ボイラ効 率	—
L-001017	産業・業務 (業種共通)	断熱	窓	Low-E複層ガラス	認証対象及び計算方法 の記載を修正(備考参 照。S-005233、S- 005232、S-005231、S- 005230、S-005229、S- 005228を同様に修正)	○	S-005234	2.5	W/m2K	熱貫流率	[準拠する規格]JISR3107:2019及 びJISR3209:2018 [規格の名称]板ガラス類の熱抵抗 及び建築における熱貫流率の算定 方法及び複層ガラス [計算式]JISR3107:2019及び JISR3209:2018に準拠	●	S-005234	2.5	W/m2K	熱貫流率	[準拠する規格]JISR3107:1998及 びJISR3209:1998 [規格の名称]板ガラス類の熱抵抗 及び建築における熱貫流率の算定 方法及び複層ガラス [計算式]JISR3107:1998及び JISR3209:1998に準拠
L-001017	産業・業務 (業種共通)	断熱	窓	Low-E複層ガラス	認証対象及び試験条件 の記載を修正(備考参 照。S-005233、S- 005232、S-005231、S- 005230、S-005229、S- 005228を同様に修正)	○	S-005234	2.5	W/m2K	熱貫流率	[準拠する規格]JISR3107:2019及 びJISR3209:2018 [規格の名称]板ガラス類の熱抵抗 及び建築における熱貫流率の算定 方法及び複層ガラス [説明]JISR3107:2019及び JISR3209:2018に準拠。ただし、L2- Tech水準は、LE3+A6+FL3のガ ラス構成における数値を示す。	●	S-005234	2.5	W/m2K	熱貫流率	[準拠する規格]JISR3107:1998及 びJISR3209:1998 [規格の名称]板ガラス類の熱抵抗 及び建築における熱貫流率の算定 方法及び複層ガラス [説明]JISR3107:1998及び JISR3209:1998に準拠。ただし、L2- Tech水準は、LE3+A6+FL3のガ ラス構成における数値を示す。
L-001113	家庭	断熱	窓	Low-E複層ガラス(家庭 用)	認証対象及び計算方法 の記載を修正(備考参 照。S-004955、S- 004954、S-004953、S- 004952、S-004951、S- 004950を同様に修正)	○	S-004956	2.5	W/m2K	熱貫流率	[準拠する規格]JISR3107:2019及 びJISR3209:2018 [規格の名称]板ガラス類の熱抵抗 及び建築における熱貫流率の算定 方法及び複層ガラス [計算式]JISR3107:2019及び JISR3209:2018に準拠	●	S-004956	2.5	W/m2K	熱貫流率	[準拠する規格]JISR3107:1998及 びJISR3209:1998 [規格の名称]板ガラス類の熱抵抗 及び建築における熱貫流率の算定 方法及び複層ガラス [計算式]JISR3107:1998及び JISR3209:1998に準拠
L-001113	家庭	断熱	窓	Low-E複層ガラス(家庭 用)	認証対象及び試験条件 の記載を修正(備考参 照。S-004955、S- 004954、S-004953、S- 004952、S-004951、S- 004950を同様に修正)	○	S-004956	2.5	W/m2K	熱貫流率	[準拠する規格]JISR3107:2019及 びJISR3209:2018 [規格の名称]板ガラス類の熱抵抗 及び建築における熱貫流率の算定 方法及び複層ガラス [説明]JISR3107:2019及び JISR3209:2018に準拠。ただし、L2- Tech水準は、LE3+A6+FL3のガ ラス構成における数値を示す。	●	S-004956	2.5	W/m2K	熱貫流率	[準拠する規格]JISR3107:1998及 びJISR3209:1998 [規格の名称]板ガラス類の熱抵抗 及び建築における熱貫流率の算定 方法及び複層ガラス [説明]JISR3107:1998及び JISR3209:1998に準拠。ただし、L2- Tech水準は、LE3+A6+FL3のガ ラス構成における数値を示す。
L-001127	家庭	空調	玄関ドア	金属製玄関ドア	クラス/条件の記載を修 正(備考参照)	●	S-004882	0.89	W/m2K	熱貫流率	[クラス/条件]-	●	S-004882	0.89	W/m2K	熱貫流率	[クラス/条件]引き戸

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	変更概要	正(赤字が修正箇所)						誤(取消線は削除)							
	部門1	部門2	技術分類			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	測定単位		備考	認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	測定単位		備考		
									単位	名称					単位	名称			
L-001127	家庭	空調	玄関ドア	金属製玄関ドア	計算方法の記載を修正 (備考参照)	●	S-004882	0.89	W/m2K	熱貫流率	[準拠する規格]JISA2102-1:2015 及びJISA2102-2:2011 [規格の名称]窓及びドアの熱性能 -熱貫流率の計算-第1部:一般、 窓及びドアの熱性能-熱貫流率の 計算-第2部:フレームの数値計算 方法 [計算式]JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠。国立研 究開発法人 建築研究所ホーム ページ内「住宅・建築物の省エネ ルギー基準及び低炭素建築物の認 定基準に関する技術情報」に基 づく代表試験体サイズによる認 証を行う。代表試験体サイズで 認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。	●	S-004882	0.89	W/m2K	熱貫流率	[準拠する規格]JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011 [規格の名称]建具の断熱性試験 方法-窓及びドアの熱性能-熱貫 流率の計算-第1部:一般、窓及び ドアの熱性能-熱貫流率の計算- 第2部:フレームの数値計算方法 [計算式]標準規格による評価		
L-001127	家庭	空調	玄関ドア	金属製玄関ドア	試験条件の記載を修正 (備考参照)	●	S-004882	0.89	W/m2K	熱貫流率	[準拠する規格]JISA4710:2015 [規格の名称]建具の断熱性試験 方法 [計算式]JISA4710:2015に準拠。 国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省 エネルギー基準及び低炭素建築物 の認定基準に関する技術情報」に 基づく代表試験体サイズによる認 証を行う。代表試験体サイズで 認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。	●	S-004882	0.89	W/m2K	熱貫流率	[準拠する規格]JISA2102-1:2015 及びJISA2102-2:2011 [規格の名称]窓及びドアの熱性能 -熱貫流率の計算-第1部:一般 及び窓及びドアの熱性能-熱貫流 率の計算-第2部:フレームの数値 計算方法 [説明]JISA4710:2015、JISA2102= 1:2015及びJISA2102-2:2011に準 拠。国立研究開発法人 建築研 究所ホームページ内「住宅・建築物 の省エネルギー基準及び低炭素建 築物の認定基準に関する技術情報 」に基づく代表試験体サイズによる 認証を行う。代表試験体サイズで 認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。		
L-001154	エネルギー 転換	事業用発電 (再エネ)	燃料電池	固体酸化物形燃料電池 (SOFC)設備	L2-Tech水準を修正	○	S-004671	55.5	*	%	発電効率	—	○	S-004671	66.7	*	%	発電効率	—
L-001154	エネルギー 転換	事業用発電 (再エネ)	燃料電池	固体酸化物形燃料電池 (SOFC)設備	L2-Tech水準を修正	○	S-004670	55.1	*	%	発電効率	—	○	S-004670	65.4	*	%	発電効率	—

区分	L2-Tech リストNo.	設備・機器等	(掲載数)
A産業・業務 (業種共通)	空調機(ヒートポンプ・個別方式)	L-000933 ガスヒートポンプ L-000934 パッケージエアコン(店舗・オフィス用) L-000935 パッケージエアコン(設備用) L-000936 パッケージエアコン(ビル用マルチ) L-000937 氷蓄熱式パッケージエアコン	(5)
	熱源・空調機(ヒートポンプ・中央方式)	L-000940 フロン類等冷凍ターボ冷凍機 L-000941 自然冷媒ターボ冷凍機 L-000942 水冷ヒートポンプチラー L-000943 空冷ヒートポンプチラー	(4)
	熱源・空調機(ヒートポンプ・中央方式)・熱源補機	L-000945 氷蓄熱ユニット	(1)
	熱源・空調機(気化式・中央方式)	L-000947 間接気化式冷却器	(1)
	熱源・空調機(吸収式・中央方式)	L-000948 吸収冷凍水機(二重効用) L-000949 吸収冷凍水機(三重効用) L-000950 一重二重併用形吸収冷凍水機 L-000951 木質ペレット直焚き吸収冷凍水機(二重効用)	(4)
	熱源・空調機(地中熱利用・中央方式)	L-000955 パッシブ地中熱利用システム	(1)
	熱源・空調機(吸着式・中央方式)	L-000956 吸着式冷凍機	(1)
	熱源(ヒートポンプ)	L-000957 高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式) L-000958 高温水ヒートポンプ(空気熱源・一過式) L-000959 高温水ヒートポンプ(水熱源・循環式) L-000960 高温水ヒートポンプ(水熱源・一過式) L-000961 高温水ヒートポンプ(水空気熱源・循環式) L-000962 高温水ヒートポンプ(水空気熱源・一過式) L-000963 熱風ヒートポンプ(空気熱源・一過式) L-000964 熱風ヒートポンプ(水熱源・一過/循環式) L-000965 蒸気発生ヒートポンプ(水熱源・一過式) L-000966 蒸気再圧縮装置	(10)
	空調機(ペレットストーブ)	L-000968 密閉式ペレットストーブ	(1)
	空調フィルタ	L-000969 空調用ハイブリッドフィルタ	(1)
	給湯器(ヒートポンプ)	L-000970 ヒートポンプ給湯機(空気熱源)	(1)
	給湯器(ガス式)	L-000972 潜熱回収型給湯器	(1)
	ボイラ	L-000973 温水機 L-000974 蒸気ボイラ(貫流ボイラ) L-000975 蒸気ボイラ(伊崎煙管ボイラ) L-000976 蒸気ボイラ(水管ボイラ) L-000977 水素ボイラ(貫流ボイラ) L-000978 熱媒ボイラ	(6)
	コージェネレーション	L-000979 ガスエンジンコージェネレーション L-000980 ガスタービンコージェネレーション L-000981 燃料電池コージェネレーション	(3)
	冷凍冷蔵機器	L-000984 業務用冷凍冷蔵庫 L-000985 空気冷凍方式冷凍機 L-000986 冷凍冷蔵庫用自然冷媒冷凍機(アンモニア/CO2二次冷凍システム) L-000987 自然冷媒冷凍冷蔵コンデンシングユニット	(4)
	照明器具	L-000988 LED照明器具	(1)
	プリンタ/複写機	L-000989 プリンタ	(2)
	モータ	L-000990 複合機 L-000991 誘導モータ	(2)
	変圧器	L-000992 永久磁石同期モータ L-000993 油入変圧器 L-000994 モールド変圧器	(2)
	モータ利用機器(圧縮機)	L-001003 蒸気駆動圧縮機 L-001004 熱回収式ねじ容積形圧縮機	(2)
	窓	L-001017 Low-E複層ガラス L-001018 三層Low-E複層ガラス L-001019 真空Low-E複層ガラス L-001020 アタッチメント付きLow-E複層ガラス L-001021 真空ガラス L-001022 現場施工型後付けLow-E複層ガラス L-001023 薄型Low-E複層ガラス	(7)
	断熱材	L-001024 断熱材(押出法ポリスチレンフォーム) L-001025 断熱材(グラスウール) L-001026 真空断熱材	(3)
	洗濯機	L-001028 業務用ヒートポンプ式衣類洗濯乾燥機	(1)
	エネルギーマネジメントシステム	L-001032 BEMS(制御サービス・空調・熱源・中央方式)	(1)
	乾燥設備	L-001027 蒸気リサイクル型濃縮乾燥装置	(1)
	その他	L-001038 サーパー電子計算機	(1)
	オフロード特殊自動車(建設機械・内燃機関型)	L-001054 油圧ショベル(内燃機関型) L-001055 ブルドーザ(内燃機関型) L-001056 ホイールローダ(内燃機関型)	(3)

区分	L2-Tech リストNo.	設備・機器等	(掲載数)
B産業 (業種固有)	オフロード特殊自動車(建設機械・ハイブリッド型)	L-001058 油圧ショベル(ハイブリッド型)	(1)
	オフロード特殊自動車(建設機械・電気型)	L-001061 油圧ショベル(電動型) L-001062 ブルドーザ(電動型)	(2)
	洗浄乾燥機	L-001088 遠心脱水機コンテナ(容器)洗浄乾燥機	(1)
	蒸留塔	L-001089 内部熱交換最適化蒸留システム	(1)
	業務用冷凍機器	L-001234 低温用自然冷媒冷凍機(アンモニア/CO2二次冷凍システム)	(1)
	乾燥機	L-001090 熱回収式工業用繊維物乾燥機	(1)
	熱処理機	L-001091 熱回収式工業用繊維物熱処理機	(1)
	その他	L-001218 MVR型(自己蒸気機械圧縮型)蒸発濃縮装置	(1)
	自動車(内燃機関型)	L-001092 ガソリン・ディーゼル車(乗用車) L-001093 ディーゼル・天然ガス車(商用車・重量車)	(2)
	自動車(ハイブリッド型)	L-001095 ハイブリッド自動車(乗用車) L-001096 ハイブリッド自動車(商用車・重量車)	(2)
C運輸	自動車(電気型)	L-001098 電気自動車(乗用車)	(1)
	空調機(ヒートポンプ)	L-001137 ルームエアコン L-001138 ヒートポンプ冷水システム L-001139 ヒートポンプ式温水床暖房 L-001140 ルームエアコン付温水床暖房 L-001141 マルチタイプ温水床暖房 L-001142 地中熱ルウムエアコン	(5)
	空調機(ヒートポンプ・地中熱利用)	L-001143 地中熱ヒートポンプ冷水システム(ハイブリッド式)	(2)
	空調機(ペレットストーブ)	L-001144 密閉式ペレットストーブ(家庭用)	(1)
	給湯器(ヒートポンプ)	L-001106 家庭用エコキュート L-001107 多機能ヒートポンプ給湯機	(2)
	給湯器(ヒートポンプ・太陽熱利用)	L-001145 太陽熱集熱器対応型エコキュート	(1)
	給湯器(ガス式)	L-001108 ガス温水機器(エコジョーズ)	(1)
	給湯器(ヒートポンプ・ガス式)	L-001146 ハイブリッド給湯機(家庭用)	(1)
	給湯器(石油式)	L-001147 石油温水機器(エコフィール)	(1)
	給湯器(太陽熱利用)	L-001149 真空管集熱器(強制循環型太陽熱給湯器用)(家庭用) L-001150 平板集熱器(強制循環型太陽熱給湯器用)(家庭用)	(3)
D家庭	コージェネレーション	L-001151 蓄熱槽(強制循環型太陽熱給湯器用)(家庭用) L-001109 家庭用燃料電池(エネファーム・PEFC) L-001110 家庭用燃料電池(エネファーム・SOFC)	(2)
	冷凍冷蔵機器	L-001111 電気冷蔵庫	(1)
	照明器具	L-001112 LED照明器具(家庭用)	(1)
	テレビ	L-001152 液晶テレビ	(1)
	洗濯機	L-001131 洗濯乾燥機	(1)
	電気便座	L-001153 電気便座	(1)
	窓	L-001113 Low-E複層ガラス(家庭用) L-001114 三層Low-E複層ガラス(家庭用) L-001115 真空Low-E複層ガラス(家庭用) L-001116 アタッチメント付きLow-E複層ガラス(家庭用) L-001117 真空ガラス(家庭用) L-001118 現場施工型後付けLow-E複層ガラス(家庭用) L-001119 薄型Low-E複層ガラス(家庭用) L-001120 Low-E複層ガラス・樹脂サッシ L-001121 Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ L-001122 三層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ L-001123 三層Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ L-001124 五層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ L-001125 真空ガラス・樹脂サッシ L-001126 真空ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	(14)
	玄関ドア	L-001127 金属製玄関ドア	(1)
	断熱材	L-001128 断熱材(家庭用・押出法ポリスチレンフォーム) L-001129 断熱材(家庭用・グラスウール) L-001130 真空断熱材(家庭用)	(3)
	エネルギーマネジメントシステム	L-001135 HEMS(情報提供サービス・家電全般)	(1)
燃料電池	L-001154 固体酸化物形燃料電池(SOFC)設備	(1)	
太陽光発電	L-001160 太陽電池(シリコン系・単結晶) L-001161 太陽電池(シリコン系・多結晶) L-001162 太陽電池(化合物系) L-001163 太陽電池(薄膜シリコン) L-001164 トランスレス方式パワーコンディショナ(太陽光発電用) L-001165 高周波変圧器絶縁方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	(6)	
Eエネルギー転換	水力発電	L-001172 プロペラ水車(小水力発電用) L-001173 フランシス水車(小水力発電用)	(2)
	地熱発電	L-001177 温水熱源小型バイナリー発電設備 L-001178 蒸気熱源小型バイナリー発電設備	(2)
	バイオマス発電	L-001181 ガスエンジン発電設備(メタン発酵発電用) L-001230 ディーゼル発電設備(バイオディーゼル燃料専用)	(2)
	熱輸送	L-001182 潜熱蓄熱輸送設備	(1)
	リン回収設備	L-001204 リン回収設備HAP法(し尿・浄化槽汚泥用) L-001205 リン回収設備MAP法(し尿・浄化槽汚泥用) L-001206 リン回収設備MAP法(下水汚泥用)	(3)
	選別機	L-001208 近赤外線樹脂選別機	(1)

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
														単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格
						発電機付	相当馬力数	7.5HP以下	-	S-004784	-	-	COPp	標準規格 による評 価	-	-	COPp = (Ccr + Chr) / 2 Ccr = Φ crr / (Gcr + Phr / (3600 / 9790))、Chr = Φ chr / (Ghr + Phr / (3600 / 9790)) Ccr : 冷房成績係数 Chr : 暖房成績係数 Φcr : 定格冷房標準能力(kW) Φhr : 定格暖房標準能力(kW) Gcr : 定格冷房標 準消費電力(kW) Ghr : 定格暖房標準消費電力(kW) Phr : 定格冷房標準消費電力(kW) Pcr : 定格暖房標準消費電力(kW) ※COPpは、小数点 3桁目を切捨て、小数点2桁目までを表示する。	JRA4067:2015または JISB8627:2006	いずれもガ スヒートボ ンプ冷暖房 機	JRA4067:2015または JISB8627:2006に準拠。ただ し、電源の周波数は、50Hzとする。
								7.5HP超10HP以下	-	S-004785	-									
								10HP超16HP以下	•	S-004553	1.34									
								16HP超25HP以下	•	S-004554	1.34									
								25HP超	•	S-004555	1.27									
								7.5HP以下	-	S-004787	-	-	期間成績係 数 (APFp)	標準規格 による評 価	JISB8627:2015	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:2015	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠
								7.5HP超10HP以下	-	S-004790	-									
								10HP超16HP以下	•	S-004556	1.86									
								16HP超25HP以下	•	S-004557	1.97									
								25HP超	•	S-004558	1.91									
L-000934	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	パッケージエ アコン(店舗・オ フィス用)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空気調和機で、冷房能力が4 ~28kW程度。主に店舗・オフィス向け。	冷房能力		4.0kW以下	○	S-004559	8.1	-	通年エネ ルギー消費効 率 (APF)	標準規格 による評 価	JISB8616:2015	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:2015	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠
								4.0kW超 5.0kW以下	○	S-004560	7.9									
								5.0kW超 6.3kW以下	○	S-004561	8.1									
								6.3kW超 11.2kW以下	•	S-004562	7.3									
								11.2kW超 16.0kW以下	•	S-004563	6.8									
								16.0kW超	•	S-004564	6.3									
L-000935	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	パッケージエ アコン(設備用)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空気調和機で、冷房能力が9 ~140kW程度。主に工場向け。	冷房能力		28kW以下	•	S-004565	4.8	-	通年エネ ルギー消費効 率 (APF)	標準規格 による評 価	JISB8616:2015	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:2015	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠
								28kW超 45kW以下	•	S-004566	4.2									
								45kW超 56kW以下	•	S-004567	4									
								56kW超 80kW以下	•	S-004568	3.9									
								80kW超 112kW以下	•	S-004569	3.5									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法				試験条件					
														単位	名称	準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明		
						700RT以上1000RT未満	• S-004618	6.4 *															
						1000RT以上1500RT未満	• S-005796	6.5 *															
						1500RT以上	• S-004620	6.5 *															
L-000941	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機 (ヒート ポンプ・ 中央方 式)	自然冷媒ターボ 冷凍機	蒸発器、圧縮機、凝集器、弁からなる。蒸発器内の冷媒を蒸発させ蒸発器内のパイプの中の循環水を冷やし、冷水として取り出して使用する機器。蒸発した冷媒は圧縮機で昇圧され、凝縮器内の冷却水で凝縮され液体に戻る。従来はHFC冷媒が使用されるケースが多いが、本設備・機器等は自然冷媒である水が使用されている。公共スペース、地下街、及び医療機関での使用が期待されている。	冷却能力	200RT未満	• S-004621	7.36 *	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠					
						300RT以上400RT未満	- S-004816	-															
L-000942	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機 (ヒート ポンプ・ 中央方 式)	水冷ヒートポン プチラー	水を熱源としたヒートポンプ方式の水冷式チリングユニット。	冷却能力	40.0kW以下	• S-004622	4.48	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠					
						40.0kW超80.0kW以下	• S-004623	4.28															
						80.0kW超118.0kW以下	• S-004624	5.41															
						118.0kW超180.0kW以下	• S-004625	5.28															
						180.0kW超500.0kW以下	○ S-004626	5.57															
						500.0kW超1000.0kW以下	• S-004627	6															
						1000.0kW超1500.0kW以下	○ S-004628	5.22															
						ブライン仕様、ブライン入口温度3℃、ブライン出口温度0℃	冷却能力	40.0kW以下	• S-004629	3.28	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については3℃、ブライン出口温度については0℃とする。				
						40.0kW超80.0kW以下	• S-004630	2.65															
						80.0kW超118.0kW以下	- S-004815	-															
						118.0kW超180.0kW以下	- S-004819	-															
						180.0kW超500.0kW以下	- S-004973	-															
						500.0kW超1000.0kW以下	- S-004976	-															
						1000.0kW超1500.0kW以下	- S-004977	-															
						ブライン仕様、ブライン入口温度-3℃、ブライン出口温度-7℃	冷却能力	40.0kW以下	• S-004631	2.24	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については-3℃、ブライン出口温度については-7℃とする。				
						40.0kW超80.0kW以下	• S-004632	2.61															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス				L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)	認定 対象			測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		説明		
														単位	名称	標準する規格	規格の名称		標準する規格	規格の名称
						出口温度60℃	加熱能力	60.0kW以下	-	S-004986	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠。ただ し、出口温度は60℃とする。
						60.0kW超90.0kW以下		-	S-004989	-										
						90.0kW超120.0kW以下		•	S-004654	2.76										
						120.0kW超160.0kW以下		•	S-004655	2.58										
						160.0kW超		○	S-004656	2.54										
						ブライン仕様、ブライン入 口温度0℃、ブライン出口 温度-5℃	冷却能力	60.0kW以下	-	S-004990	-	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度につい ては-5℃とする。
						60.0kW超90.0kW以下		○	S-004659	2.84										
						90.0kW超120.0kW以下		•	S-004661	2.52										
						120.0kW超160.0kW以下		○	S-004663	2.64										
						160.0kW超		○	S-004666	2.79										
						ブライン仕様、ブライン入 口温度0℃、ブライン出口 温度-5℃、散水式	冷却能力	60.0kW以下	-	S-004993	-	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度につい ては-5℃とする。
						60.0kW超90.0kW以下		○	S-004667	2.9										
						90.0kW超120.0kW以下		○	S-004677	2.75										
						120.0kW超160.0kW以下		-	S-004679	-										
						160.0kW超		-	S-004683	-										
						ブライン仕様、ブライン入 口温度-2℃、ブライン出口 温度-5℃	冷却能力	60.0kW以下	•	S-004686	2.78	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度につい ては-2℃、ブライン 出口温度については-5℃とする。
						60.0kW超90.0kW以下		•	S-004688	2.78										
						90.0kW超120.0kW以下		○	S-004690	2.72										
						120.0kW超160.0kW以下		•	S-004693	2.63										
						160.0kW超		•	S-004696	2.72										
						ブライン仕様、ブライン入 口温度3℃、ブライン出口 温度0℃	冷却能力	60.0kW以下	•	S-004698	2.45	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度につい ては3℃、ブライン 出口温度については0℃とする。
						60.0kW超90.0kW以下		-	S-004701	-										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			認定 対象	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		
												単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称
						160.0kW超	-	S-004766	2										
					寒冷地仕様、散水式	冷却能力	60.0kW以下	-	S-004769	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-004771	-										
						90.0kW超120.0kW以下	-	S-004774	-										
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-004776	-										
						160.0kW超	-	S-004778	-										
						60.0kW以下	-	S-004779	-			成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-004824	-										
						90.0kW超120.0kW以下	-	S-004825	-										
						120.0kW超160.0kW以下	●	S-004826	4.12										
						160.0kW超	-	S-004827	-										
					散水式	冷却能力	60.0kW以下	-	S-004828	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠
						60.0kW超90.0kW以下	●	S-004829	6.6										
						90.0kW超120.0kW以下	●	S-004831	6.4										
						120.0kW超160.0kW以下	●	S-004832	6.1										
						160.0kW超	●	S-004833	6										
						60.0kW以下	○	S-004834	4.86			成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠
						60.0kW超90.0kW以下	●	S-004835	6.2										
						90.0kW超120.0kW以下	●	S-004836	5.46										
						120.0kW超160.0kW以下	●	S-004837	4.86										
						160.0kW超	○	S-004838	6										
					散水式、冷水出入口温度差 7℃	冷却能力	60.0kW以下	-	S-004839	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス				L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)	認定 対象			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
												単位	名称		準拠する規格	規格の名称	準拠する規格	規格の名称	説明	
						冷房専用、冷水出入口温度 差7℃	冷却能力	60.0kW以下	-	S-004901	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	•	S-004902	6									
								90.0kW超120.0kW以下	•	S-004903	6									
								120.0kW超160.0kW以下	•	S-004904	5.7									
								160.0kW超	•	S-004905	5.6									
								60.0kW以下	○	S-004906	4.01	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	•	S-004907	4.14									
								90.0kW超120.0kW以下	•	S-004908	3.86									
								120.0kW超160.0kW以下	•	S-004909	3.5									
								160.0kW超	•	S-004910	3.42									
						冷房専用、冷水出入口温度 差7℃、散水式	冷却能力	60.0kW以下	-	S-004911	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	•	S-004912	7									
								90.0kW超120.0kW以下	•	S-004914	6.7									
								120.0kW超160.0kW以下	•	S-004915	6.5									
								160.0kW超	•	S-004922	6.3									
								60.0kW以下	○	S-004924	5.04	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	•	S-004927	6.39									
								90.0kW超120.0kW以下	•	S-004928	5.65									
								120.0kW超160.0kW以下	○	S-004931	5.04									
								160.0kW超	○	S-004934	6.3									
L-000945	産業・業 務（業種 共通）	空調	熱源・空 調機 （ヒート ポンプ・ 中央方 式）・熱 源補機	水蓄熱ユニット	中央方式の空調機における熱源機とは別に水蓄熱槽を持っており、夜間の冷房を使っていない時間帯に、水蓄熱槽の熱交換器で水を作り、昼間の冷房運転時には、室外ユニットを通った冷媒を水蓄熱槽の熱交換器でさらに冷やしてから室内機に送ることによって利用する。2050年に向けた再生可能エネルギー発電の最大活用に資することが期待される。	-	定格日量冷却能力	1000kW h 以下	-	S-004939	-	-	日量成績係 数	標準規格 による評 価	JRA4044:200 5	水蓄熱ユ ニット	JRA4044:2005に準拠	JRA4044:200 5	水蓄熱ユ ニット	JRA4044:2005に準拠

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標					
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件	
														単位	名称	標準する規格	規格の名称
				分液型	冷却能力	14.0kW以下	• S-005007	11.1 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	JRA4066:201 4およびJIS B 8615-2	ウォータチ リングユ ニットおよび エアコン ディシヨナ	標準条件による評価	JRA4066:201 4およびJIS B 8615-2	ウォータチ リングユ ニットおよび エアコン ディシヨナ	日本冷凍空調工業会、又は日本規格協会の指定の 規格によって試験および効率の計算を行う。た だし、本設備は水膨張としながらもヒートポンプ がないため、一部抜粋での試験条件とし、新たな 試験項目は追加する。【空気条件】JIS B 8615-2 PB 表2-冷房能力試験条件より、気候の温和な 地域に対する温度条件(T1)の場合とする【試 験条件】COP算出=冷却能力÷定格消費電力とす る 冷却能力=D R Y 制空気の質量流出と出 入口比エンタルピー差の積
						14.0kW超16.0kW以下	• S-005008	11 *									
						16.0kW超22.4kW以下	• S-005009	11 *									
						22.4kW超28.0kW以下	• S-005010	11.1 *									
						28.0kW超33.5kW以下	• S-005011	11 *									
						33.5kW超40.0kW以下	• S-005012	11 *									
						40.0kW超60.0kW以下	• S-005013	11 *									
						60.0kW超80.0kW以下	• S-005014	11 *									
						80.0kW超100.0kW以下	• S-005015	11 *									
						100.0kW超120.0kW以下	• S-005016	11 *									
						120.0kW超140.0kW以下	• S-005017	11 *									
						140.0kW超160.0kW以下	• S-005018	11 *									
						160.0kW超200.0kW以下	• S-005019	11 *									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
														単位	名称	準拠する規格	規格の名称	準拠する規格	規格の名称	計算式	説明
L-000948	産業・業 務(業種 共通)	空調/産 業用プロセ ス	熱源・空 調機(吸 収式・中 央方式)	吸収冷凍水機 (二重効用)	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用 して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、 高温、低温再生器を有するもの。	節電型(冷却水量原単位 0.7m3/h、RT以下)、冷水入 口温度15℃、冷水出口温度 7℃	冷房能力	80RT以下	○	S-005020	1.48	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	
								80RT超1000RT以下	●	S-005021	1.48	-	-	-	-	-	-	-	-		
								1000RT超	○	S-005022	1.41	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
L-000949	産業・業 務(業種 共通)	空調/産 業用プロセ ス	熱源・空 調機(吸 収式・中 央方式)	吸収冷凍水機 (三重効用) / 廢熱投入型吸収 冷凍水機(三重 効用)	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用 して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、 高温、中温、低温再生器を有するもの。	冷水入口温度12℃、冷水出 口温度7℃	-	-	●	S-005026	1.74	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	
								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
L-000950	産業・業 務(業種 共通)	空調/産 業用プロセ ス	熱源・空 調機(吸 収式・中 央方式)	一重二重併用形 吸収冷凍水機	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用 して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、 排熱を熱源として利用し、燃料削減率が20%以上のもの。	節電型(冷却水量原単位 0.7m3/h、RT以下)、冷水入 口温度15℃、冷水出口温度 7℃	冷房能力	80RT以下	○	S-005027	1.47	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	
								80RT超1000RT以下	●	S-005028	1.47	-	-	-	-	-	-	-			
								1000RT超	-	S-005029	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
L-000951	産業・業 務(業種 共通)	空調	熱源・空 調機(吸 収式・中 央方式)	木質ペレット直 焚き吸収冷凍水 機(二重効用)	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用 して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、 高温、低温再生器を有するもの内、加熱源の燃料に木質ペ レットを使用するもの。中央方式を採用する業務施設の冷暖房に 使用される。	-	冷房能力	80RT以下	○	S-005033	1.04	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JIS B 8622 : 2009	吸収式冷凍 機	JIS B 8622 : 2009に準拠、ただし、成績係数は冷 凍能力を加熱源消費熱量で除したものとし、消費 電力は除外することとする。	JIS B 8622 : 2009	吸収式冷凍 機	JIS B 8622 : 2009に準拠	
								80RT超1000RT以下	-	S-005034	-	-	-	-	-	-	-				
								1000RT超	-	S-005035	-	-	-	-	-	-	-				

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)				クラス能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	計算法		試験条件						
												単位	名称		単調する規格	規格の名称	単調する規格	規格の名称	説明				
L-000955	産業・業 務(業種 共通)	空調	熱源・空 調機(地 中熱利 用・中央 方式)	パッシブ地中熱 利用システム	熱交換パイプ、制御盤、ポンプ、ファンからなる。地下水又は温 水をスライラル状に通水できるパイプを地下2mに埋設し送風をす ること、空気と地中熱・水の熱と熱交換を行い送風、冷風を送 風する機器。一般的には通風部のみあるクールチューブやアース チューブなどと呼ばれる空調機が存在する。こういったシステム と比べて、水が持つ熱との熱交換が知わたこと、熱交換量が 飛躍的に増え、大空間の空調を行えるようになった。	冷房能力	6.4kW	-	S-005036	-	-	成績係数 (COP)	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、入気温度、 吹き出し温度、給水温度、戻り水温度について は、以下の通り設定することを条件とする。入気 温度35℃、吹き出し温度27℃、給水温度:15℃、 戻り水温度:15℃				
						8.2kW	-	S-005037	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
						10.9kW	○	S-005038	15.57 *	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						12.8kW	-	S-005039	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						21.9kW	-	S-005040	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						29.2kW	-	S-005041	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
36.5kW	-	S-005042	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
L-000956	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機(吸 着式・中 央方式)	吸着式冷凍機	吸着器内部に充填された吸着剤に冷媒を吸着させ、冷媒の蒸発を 促し、その気化熱から冷凍効果を得る冷凍機。	熱源入口温度58℃	-	-	○	S-005043	15.2 *	-	電力COP	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W]注:上記のCOPは電力COP である	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、冷水出口温 度、冷却水入口温度、熱源入口温度をそれぞれ 次のとおり設定することを条件とする。冷水出口 温度:15℃、冷却水入口温度:27℃、熱源入口温 度:58℃注:上記のCOPは電力COPである			
						熱源入口温度:68℃	冷却能力	2.5kW以上25kW未満	●	S-005044	25.7 *	-	電力COP	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費エネルギー[W]注:上記のCOPは電力COPである	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、冷水出口温 度、冷却水入口温度、熱源入口温度をそれぞれ 以下のとおり設定することを条件とする。冷水出 口温度:15℃冷却水入口温度:27℃熱源入口温 度:68℃注:上記のCOPは電力COPである			
						25kW以上50kW未満	○	S-005045	25 *	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
						50kW以上	●	S-005046	26.1 *	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
L-000957	産業・業 務(業種 共通)	給湯/産業 用プロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポ ンプ(空気熱源・ 循環式)	空気を熱源とし、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式 で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含ま ないもの。	温水出口温度65℃以上70℃ 以下、乾球温度16℃、湿球 温度12℃、温水出入口温度 差5℃	-	-	●	S-005047	3.09 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を次 のとおりに設定することを条件とする。温水出 口温度:65℃以上70℃以下、乾球温度:16℃、湿球 温度:12℃、温水出入口温度差:5℃			
						温水出口温度65℃以上70℃ 以下、乾球温度25℃、湿球 温度21℃、温水出入口温度 差10℃	-	-	●	S-005048	3.63 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以 下のとおりに設定することを条件とする。温水出 口温度:65℃以上70℃以下、乾球温度:25℃、湿球 温度:21℃、温水出入口温度差:10℃			
						温水出口温度65℃以上70℃ 以下、乾球温度25℃、湿球 温度21℃、温水出入口温度 差5℃	-	-	●	S-005049	3.3 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以 下のとおりに設定することを条件とする。温水出 口温度:65℃以上70℃以下、乾球温度:25℃、湿球 温度:21℃、温水出入口温度差:5℃			
						温水出口温度60℃、乾球温 度16℃、温水出入口温度差 5℃	-	-	○	S-005764	3.07	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、乾球温度、温水出入口温度差を以下のとおり 設定することを条件とする。温水出口温度 60℃、乾球温度16℃、温水出入口温度差5℃			
						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標														
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		説明								
														単位	名称	準拠する規格	規格の名称		計算式	準拠する規格	規格の名称					
L-000958	産業・業 務(業種 共通)	給湯/産 業用プロセ ス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポ ンプ(空気熱源・ 一過式)	空気を熱源とし、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式 で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含ま ないもの。	-	-	-	● S-005055	4.2 *	-	年間標準貯 湯加熱エネ ルギー消費 効率	標準規格 による評 価	JRA4060:201 4	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:201 4	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠							
L-000959	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポ ンプ(水熱源・循 環式)	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式 の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱す る熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	加熱能力	270kW以下	● S-005057	3.4 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：17℃ 熱源水出口温度：7℃ 温水出入口温度差：10℃						
							270kW超350kW以下	-	S-005065	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
							350kW超540kW以下	●	S-005068	3.2 *	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
							540kW超	-	S-005077	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
							温水出口温度65℃、熱源水 入口温度17℃以上30℃以 下、熱源水出口温度7℃以 上20℃以下、温水出入口温 度差10℃	加熱能力	270kW以下	●	S-005084	4.3 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：17℃ 以上30℃以下 熱源水出口温度：7℃以上20℃以下 温水出入口温度差：10℃	
							270kW超350kW以下	-	S-005086	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
							350kW超540kW以下	●	S-005091	4.4 *	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
							540kW超	-	S-005100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
							温水出口温度65℃、熱源水 入口温度20℃、熱源水出口 温度15℃以上17℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	●	S-005109	3.6 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を次のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度： 20℃、熱源水出口温度：15℃以上17℃以下、温水 出入口温度差：5℃	
							270kW超350kW以下	-	S-005110	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
							350kW超540kW以下	●	S-005112	3.7 *	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
							540kW超	-	S-005117	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
温水出口温度65℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度25℃以上30℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	●	S-005124	4.2 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃以上30℃以下 温水出入口 温度差：5℃								
270kW超350kW以下	-	S-005133	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
350kW超540kW以下	-	S-005141	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
														単位	名称	単調する規格	規格の名称	計算式	単調する規格	規格の名称	説明		
						540kW超	• S-005146	4.8 *															
						温水出口温度65℃、熱源水 入口温度38℃以上40℃以下、 熱源水出口温度35℃、 温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	• S-005156	5.1 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-					成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：38℃ 以上40℃以下 熱源水出口温度：35℃ 温水出入口 温度差：5℃
						270kW超350kW以下	- S-005159	-															
						350kW超540kW以下	- S-005164	-															
						540kW超	- S-005185	-															
						温水出口温度65℃、熱源水 入口温度40℃、熱源水出口 温度30℃、温水出入口温度 差10℃	加熱能力	270kW以下	• S-005186	4.9 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-					成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：30℃ 温水出入口温度差：10℃
						270kW超350kW以下	- S-005187	-															
						350kW超540kW以下	- S-005197	-															
						540kW超	• S-005203	5.8 *															
						温水出口温度75℃、熱源水 入口温度20℃、熱源水出口 温度15℃以上17℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	• S-005208	3.1 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-					成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：20℃ 熱源水出口温度：15℃以上17℃以下 温水出入口 温度差：5℃
						270kW超350kW以下	- S-005259	-															
						350kW超540kW以下	- S-005262	-															
						540kW超	- S-005263	-															
						温水出口温度75℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度20℃、温水出入口温度 差10℃	加熱能力	270kW以下	• S-005265	3.7 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-					成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：20℃ 温水出入口温度差：10℃
						270kW超350kW以下	- S-005268	-															
						350kW超540kW以下	- S-005270	-															
						540kW超	- S-005273	-															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算法				試験条件			
														単位	名称	準拠する規格	規格の名称	計算法	準拠する規格	規格の名称	試験条件
						温水出口温度75℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度25℃以上27℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下 270kW超350kW以下 350kW超540kW以下 540kW超	● S-005276 - S-005278 - S-005283 - S-005285	3.7 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃以上27℃以下 温水出入口 温度差：5℃		
					温水出口温度75℃、熱源水 入口温度35℃以上40℃出 下、熱源水出口温度30℃、 温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下 270kW超350kW以下 350kW超540kW以下 540kW超	○ S-005287 ● S-005290 - S-005293 - S-005295	3.9 * 4.3 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：35℃ 以上40℃以下 熱源水出口温度：30℃ 温水出入口 温度差：10℃			
					温水出口温度75℃、熱源水 入口温度40℃、熱源水出口 温度35℃、温水出入口温度 差5℃	加熱能力	270kW以下 270kW超350kW以下 350kW超540kW以下 540kW超	● S-005299 - S-005305 - S-005308 - S-005311	4.44 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：35℃ 温水出入口温度差：5℃			
					温水出口温度90℃、熱源水 入口温度17℃、熱源水出口 温度7℃、温水出入口温度 差10℃	加熱能力	270kW以下 270kW超350kW以下 350kW超540kW以下 540kW超	- S-005315 ● S-005329 - S-005332 - S-005335	2.75 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：17℃ 熱源水出口温度：7℃ 温水出入口温度差：10℃			
					温水出口温度90℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度25℃、温水出入口温度 差5℃	加熱能力	270kW以下 270kW超350kW以下 350kW超540kW以下	- S-005338 ● S-005351 - S-005354	3.1 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃ 温水出入口温度差：5℃			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス				L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)	認定 対象			測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法		準拠する規格	規格の名称	試験条件	説明
												単位	名称				計算式	計算式				
						燃料：木質バイオマス	出力	100kW以上200kW未満	●	S-005717	90	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	HA-034-2； 2015または HA-034-1； 2015	日本暖房機 器工業会規 格HA	J I S B8222-1993、HA-034-2：2015、HA-034-1：2015に準拠	JISB8222-1993、 JISB8417:2000または JISB8418:2000	随用ボイ ラー熱効 率、真空 式温水発 生機、ま たは無圧 式温水発 生機	JISB8222-1993、JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠		
								200kW以上300kW未満	●	S-005720	90											
								300kW以上400kW未満	●	S-005723	90											
								400kW以上500kW未満	●	S-005727	90											
								500kW以上600kW未満	●	S-005729	90											
						燃料：薪	出力	100kW未満	○	S-005734	90	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	HA-034-2； 2015または HA-034-1； 2015	日本暖房機 器工業会規 格HA	JISB8222-1993、HA-034-2：2015、HA-034-1：2015に準拠	JISB8222-1993、 JISB8417:2000または JISB8418:2000	随用ボイ ラー熱効 率、真空 式温水発 生機、ま たは無圧 式温水発 生機	JISB8222-1993、JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠		
								100kW以上200kW未満	●	S-005737	90											
								200kW以上400kW未満	○	S-005740	85											
								400kW以上	○	S-005743	85											
L-000974	産業・業 務(業種 共通)	産業用ブ ロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(貫 流ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を生じさせ、その蒸気を他に供給する装置。小型・軽量で、空調用、業務用～産業用の幅広い業種で使用される。	-	蒸発量	1500kg/h未満	●	S-005747	98	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222-1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993および 公益財団法 人日本小型 貫流ボイ ラー協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基 準値」	随用ボイ ラー熱効 率方式および 公益財団法 人日本小型 貫流ボイ ラー協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基 準値」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準値」に準拠		
								1500kg/h以上3000kg/h未満	●	S-005751	98											
								3000kg/h以上	●	S-005753	99											
						潜熱回収型	蒸発量	3000kg/h未満	●	S-005756	102	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222-1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993および 公益財団法 人日本小型 貫流ボイ ラー協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基 準値」	随用ボイ ラー熱効 率方式および 公益財団法 人日本小型 貫流ボイ ラー協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基 準値」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準値」に準拠		
								3000kg/h以上	●	S-005757	102											
						クローズド回収型(給水温度100℃以上)、エアヒータ(空気予熱器)の搭載	(相当)蒸発量	3000kg/h未満	●	S-005755	98*	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222-1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠	貫流ボイ ラー性能表 示ガイドラ イン	貫流ボイ ラー性能表 示ガイドラ イン	給水温度15℃、給気温度35℃、運転圧力は「貫流ボイラー性能表示ガイドライン」表1.効率表示圧力基準に準拠		
								3000kg/h以上	●	S-005754	98*											

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				標準規格 による評 価	L2-Tech 水準	測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法		試験条件	
														単 位	名 称				計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
L-000975	産業・業 務（業種 共通）	産業用ブ ロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(炉 間煙管ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気 を他に供給する装置。中程度の出力で、主に産業用・地域冷暖房用 途で使用される。	-	蒸発量	1500kg/h未満	●	S-005752	92	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠		
								1500kg/h以上3000kg/h未満	●	S-005750	92											
								3000kg/h以上7200kg/h未満	●	S-005749	96											
								7200kg/h以上19200kg/h未満	●	S-005748	96											
								19200kg/h以上	●	S-005746	92											
L-000976	産業・業 務（業種 共通）	産業用ブ ロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(水 管ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気 を他に供給する装置。高圧・大容量で、主に化学・製紙業といった 産業用や、地域暖房用で使用される。	-	蒸発量	1500kg/h未満	○	S-005745	92	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠		
								1500kg/h以上3000kg/h未満	-	S-005744	-											
								3000kg/h以上7200kg/h未満	●	S-005742	96											
								7200kg/h以上19200kg/h未満	○	S-005741	94											
								19200kg/h以上	○	S-005739	94											
L-000977	産業・業 務（業種 共通）	産業用ブ ロセス	ボイラ	水素ボイラ（貫 流ボイラ）	水素の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気 を他に供給する装置。水素は燃焼時に水のみしか生成せず、CO2 を排出しない事から、炭化水素系燃料からの代替により、大幅に CO2を削減できる。現在は安価に水素が調達可能な副生水素の工 場が対象とはなっているが、将来的には水素価格の低下により広 く様々な業界で利用できると考えられる。	-	蒸発量	1500kg/h未満	○	S-005738	90	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993および 公益財団法 人日本小型 貫流ボイ ラー協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基 準値」	随用ボイ ラー熱効 率方式および 公益財団法 人日本小型 貫流ボイ ラー協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基 準値」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流 ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準 値」に準拠		
								1500kg/h以上3000kg/h	●	S-005736	95											
								3000kg/h以上	-	S-005735	-											
L-000978	産業・業 務（業種 共通）	産業用ブ ロセス	ボイラ	熱媒ボイラ	沸出の高い油を伝熱媒体に使用することによって、常圧で高温が 得られる装置。熱媒の種類によって油温度を200℃以上の任意温度 にすることが容易にできるため、精度の高い温度制御が必要な化 学工業等の加熱、反応用プロセスに多く用いられる。	-	出力	1000kW未満	●	S-005733	92	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠		
								1000kW以上2000kW未満	●	S-005731	92											
								2000kW以上	●	S-005730	92											
L-000979	産業・業 務（業種 共通）	空調/給湯/ 産業用ブ ロセス	コージェ ネレー ション	ガスエンジン コージェネレ ーション	ガスを燃料としエンジン方式により発電し、その際に生じる廃熱 を同時回収することにより、燃料を効率的に利用する熱電供給シ ステム。廃熱で発生する蒸気や温湯は、製造業のプロセス利用 や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	発電出力	5kW以下	●	S-005728	85.5	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェ ネレーシ ョンシ ステム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェ ネレーシ ョン ユニット の性能 試験方 法	JISB8122:2009に準拠		
								5kW超10kW以下	●	S-005726	86.5											

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ		計算方法		試験条件						
												単 位	名 称	準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明					
						2000kW超3000kW以下	○	S-005697		43.4														
					50Hz、中速エンジン (1000rpm未満)	発電出力	1000kW超2000kW以下	○	S-005696		74.3	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠				
						2000kW超3000kW以下	○	S-005695		77.9														
						1000kW超2000kW以下	●	S-005694		45.5	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					
						2000kW超3000kW以下	○	S-005693		47.8														
					60Hz	発電出力	5kW以下	●	S-005692		85.5	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠				
						5kW超10kW以下	●	S-005691		86.5														
						10kW超25kW以下	●	S-005690		85.5														
						25kW超35kW以下	●	S-005689		88														
						35kW超250kW以下	○	S-005688		90.7														
						250kW超500kW以下	○	S-005687		82.1														
						500kW超750kW以下	○	S-005682		87.8														
						750kW超1000kW以下	○	S-005680		87.8														
						3000kW超	●	S-005679		87														
						5kW以下	○	S-005678		29	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					
						5kW超10kW以下	○	S-005677		31.5														
						10kW超25kW以下	○	S-005676		33.5														
						25kW超35kW以下	○	S-005675		33.5														
						35kW超250kW以下	○	S-005674		37														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法			試験条件							
														単 位	名 称	準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明			
						250kW超500kW以下	• S-005672	42																
						500kW超750kW以下	○ S-005671	41.3																
						750kW超1000kW以下	• S-005670	42.5																
						3000kW超	• S-005669	49.8																
					60Hz、高速エンジン (1000rpm以上)	発電出力	1000kW超2000kW以下	○ S-005667	86.5	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠						
						2000kW超3000kW以下	- S-005666	-																
						1000kW超2000kW以下	○ S-005665	42.6	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠							
						2000kW超3000kW以下	- S-005664	-																
					60Hz、中速エンジン (1000rpm未満)	発電出力	1000kW超2000kW以下	○ S-005663	77	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠						
						2000kW超3000kW以下	○ S-005662	77.9																
						1000kW超2000kW以下	• S-005661	45.5	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠							
						2000kW超3000kW以下	○ S-005660	47.8																
L-000980	産業・業 務(業種 共通)	空調/給湯/ 産業用プ ロセス	コージェ ネレー ション	ガスタービン コージェネレ ーション	ガスを燃料とし、タービン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	発電出力	1000kW以下	• S-005659	83	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					
								1000kW超2000kW以下	○ S-005658	84														
								2000kW超3000kW以下	• S-005657	81.8														
								3000kW超5000kW以下	- S-005656	-														
								5000kW超7000kW以下	- S-005655	-														
								7000kW超10000kW以下	• S-005653	85.2														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	参照する規格		規格の名称		計算方法		試験条件	
												単 位	名 称		単 位	名 称	計 算 式	単 位	規 格 名 称	規 格 名 称	説 明	
						1000kW超4000kW以下	○	S-005652	85.9													
						4000kW超	○	S-005651	84													
						1000kW以下	○	S-005649	18.6	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠				
						1000kW超2000kW以下	●	S-005648	27.7													
						2000kW超3000kW以下	○	S-005646	28.4													
						3000kW超5000kW以下	●	S-005645	31.9													
						5000kW超7000kW以下	○	S-005644	39.3													
						7000kW超10000kW以下	○	S-005642	34.3													
						10000kW超40000kW以下	●	S-005640	39.1													
						40000kW超	○	S-005639	40.9													
					60Hz	発電出力		S-005638	83	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠				
						1000kW以下	●	S-005636	84													
						1000kW超2000kW以下	○	S-005636	84													
						2000kW超3000kW以下	●	S-005635	81.8													
						3000kW超5000kW以下	-	S-005634	-													
						5000kW超7000kW以下	-	S-005632	-													
						7000kW超10000kW以下	●	S-005629	85.2													
						10000kW超40000kW以下	○	S-005628	86.8													
						40000kW超	○	S-005626	84													
						1000kW以下	-	S-005625	-	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠				
						1000kW超2000kW以下	●	S-005624	27.7													
						2000kW超3000kW以下	○	S-005623	28.4													
						3000kW超5000kW以下	●	S-005622	31.9													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス				L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)	認定 対象			測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法		準拠する規格	規格の名称	試験条件
												単位	名称				計算式	説明			
						60Hz 燃料ガスの種類：純 水素	発電出力	75kW以下 75kW超150kW以下 150kW超	- ○ -	S-005589 S-005588 S-005586	- 93 -	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	リニウム形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:20 09	リニウム形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠	
						60Hz 燃料ガスの種類：都 市ガス	発電出力	75kW以下 75kW超150kW以下 150kW超	- ○ -	S-005581 S-005580 S-005579	- 91 -	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	リニウム形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:20 09	リニウム形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠	
						60Hz 燃料ガスの種類：都 市ガス	発電出力	75kW以下 75kW超150kW以下 150kW超	- ○ -	S-005578 S-005577 S-005576	- 42 -	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	リニウム形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:20 09	リニウム形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠	
						60Hz 燃料ガスの種類：パ イオガス	発電出力	75kW以下 75kW超150kW以下 150kW超	- ○ -	S-005575 S-005574 S-005573	- 84 -	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	リニウム形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:20 09	リニウム形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠	
						60Hz 燃料ガスの種類：パ イオガス	発電出力	75kW以下 75kW超150kW以下 150kW超	- ○ -	S-005572 S-005571 S-005570	- 40 -	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	リニウム形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:20 09	リニウム形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠	
L-000984	産業・業 務（業種 共通）	冷凍冷蔵	冷凍冷蔵 機器	業務用冷凍冷蔵 庫	レストランの厨房やスーパーマーケットのバックヤード等に使用 される冷凍冷蔵庫を指す。家庭用と比較し、急速な冷却機能と高 い断熱性能が求められる。	冷蔵庫：横型	容量	250L以下 250L超350L以下 350L超450L以下 450L超	- - - -	S-005569 S-005568 S-005567 S-005566	- - - -	kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷凍庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷凍庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		説明		
														単位	名称	準拠する規格	規格の名称		準拠する規格	規格の名称
						庫容量(有効容積) 2600m3規模	-	-	-	S-005545	0.4 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、庫内温度を 次のとおり設定することを条件とする。なお、附 属する機器動力も加味した定格消費エネルギーを 用いる。庫内温度:-60℃
L-000986	産業・業 務(業種 共通)	動力他	冷凍冷蔵 機器	冷凍冷蔵倉庫用 自然冷凍冷凍機 (アンモニア /CO2二次冷凍 システム)	アンモニアを一次冷媒、二酸化炭素を二次冷媒(マイナス5～マイ ナス40℃程度)とし、それを庫内に循環させる冷凍機。	庫内温度:-20℃超10℃以下、CO2温度:-17℃超-5℃ 以下、冷却水入り口温度: 32℃	冷凍能力	100kW以下 100kW超 200kW以下 200kW超	- ○ ●	S-005544 S-005543 S-005542	- 3.15 * 3.41 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、凝縮温度、 CO2温度をそれぞれ以下のとおり設定すること を条件とする。CO2温度:-17℃超-5℃以下、冷却 水入り口温度:32℃
						庫内温度:-20℃超10℃以下、CO2温度:-17℃超-5℃ 以下、冷却水入り口温度: 30℃	冷凍能力	50kW以下 50kW超	● -	S-005541 S-005540	2.7 * -	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、 冷却水入り口温度をそれぞれ以下のとおり設定す ることを条件とする。CO2温度:-17℃超-5℃以 下、冷却水入り口温度:30℃
						庫内温度:-20℃超10℃以下、CO2温度:-17℃超-5℃ 以下、吸込空気温度:32℃	冷凍能力	50kW以下 50kW超	● -	S-005539 S-005538	1.8 * -	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、 吸込空気温度をそれぞれ以下のとおり設定す ることを条件とする。CO2温度:-17℃超-5℃以 下、吸込空気温度:32℃
						庫内温度-40℃超-20℃以下	冷凍能力	50kW以下 50kW超 150kW以下 150kW超 250kW以下 250kW超	● ● ● ●	S-005537 S-005536 S-005535 S-005534	2.04 * 2.32 * 2.32 * 2.31 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、 冷却水入り口温度をそれぞれ次のとおり設定す ることを条件とする。CO2温度:-37℃超-27℃以 下、冷却水入り口温度:32℃
L-000987	産業・業 務(業種 共通)	動力他	冷凍冷蔵 機器	自然冷凍冷凍冷 蔵コンデンシン グユニット	フロン冷媒により駆動する、従来のコンデンシングユニットに対 して、CO2等の自然冷媒により駆動するコンデンシングユニット	中温用(吸込み圧力飽和温度 -10℃)、吸込ガス過熱度 10K、周囲温度32℃	冷凍能力	16.0kW以下 16.0kW超24.0kW以下 24.0kW超36.0kW以下 36.0kW超	● - ● -	S-005533 S-005532 S-005531 S-005530	2.02 - 1.84 -	-	成績係数 (COP)	標準規 格によ る評 価	JRA4019: 2014	コンデン シング ユニ ット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力 [W]	JRA4019: 2014	コンデン シング ユニ ット	JRA4019: 2014に準拠
						低温用(吸込み圧力飽和温度 -40℃)、吸込ガス過熱 度10K 周囲温度32℃	冷凍能力	8.0kW以下 8.0kW超12.0kW以下 12.0kW超18.0kW以下 18.0kW超	● - ● -	S-005529 S-005528 S-005527 S-005526	1.01 - 0.95 -	-	成績係数 (COP)	標準規 格によ る評 価	JRA4019: 2014	コンデン シング ユニ ット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力 [W]	JRA4019: 2014	コンデン シング ユニ ット	JRA4019: 2014に準拠

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)				クラス能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法		準拠する規格	規格の名称	試験条件	説明
												単位	名称				計算式	規格消費電力 [W]				
					中温用(吸込み圧力飽和温度-10℃)、吸込ガス温度18℃、空冷式の凝縮器、凝縮器に流入空気温度32℃、周囲温度32℃	冷凍能力	8.0kW以下	●	S-005525	2.1	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	JRA4019:2014に準拠			
							8.0kW超16.0kW以下	●	S-005524	1.77												
							16.0kW超24.0kW以下	●	S-005523	1.68												
							24.0kW超36.0kW以下	●	S-005522	1.77												
							36.0kW超	-	S-005521	-												
					低温用(吸込み圧力飽和温度-40℃)、吸込ガス温度18℃、空冷式の凝縮器、凝縮器に流入空気温度32℃、周囲温度32℃	冷凍能力	4.0kW以下	●	S-005520	0.94	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	JRA4019:2014に準拠			
							4.0kW超8.0kW以下	●	S-005519	0.91												
							8.0kW超12.0kW以下	●	S-005518	0.85												
							12.0kW超18.0kW以下	●	S-005517	0.91												
							18.0kW超	-	S-005516	-												
					中温用(吸込み圧力飽和温度-10℃)、吸込ガス温度18℃、水冷式の凝縮器、凝縮器の冷却水温度32℃、周囲温度32℃	冷凍能力	16.0kW以下	-	S-005515	-	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	JRA4019:2014に準拠			
							16.0kW超24.0kW以下	-	S-005514	-												
							24.0kW超36.0kW以下	○	S-005513	2				JRA4019:2014	コンデンシングユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	JRA4019:2014に準拠			
							36.0kW超	-	S-005512	-												
					低温用(吸込み圧力飽和温度-40℃)、吸込ガス温度18℃、水冷式の凝縮器、凝縮器の冷却水温度32℃、周囲温度32℃	冷凍能力	8.0kW以下	-	S-005511	-	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	JRA4019:2014に準拠			
							8.0kW超12.0kW以下	-	S-005510	-												
							12.0kW超18.0kW以下	○	S-005509	0.94												
							18.0kW超	-	S-005508	-												
L-000988	産業・業務(兼用)	照明	照明器具	LED照明器具	発光ダイオード(LED)を光源に使用した照明器具。ただし、電気用品安全法の下でのPSEマークが付与されている製品に限る。	-	-	●	S-005507	145.4	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998				

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象 L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
											単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明				
						3.0kW超3.7kW以下	•	S-005483	89.9														
						3.7kW超4.0kW以下	-	S-005482	-														
						4.0kW超5.5kW以下	•	S-005481	91.2														
						5.5kW超7.5kW以下	•	S-005480	91.5														
						7.5kW超11.0kW以下	•	S-005479	91.9														
						11.0kW超15.0kW以下	•	S-005478	92.2														
						15.0kW超18.5kW以下	•	S-005477	93.1														
						18.5kW超22.0kW以下	•	S-005476	93.8														
						22.0kW超30.0kW以下	•	S-005475	94														
						30.0kW超37.0kW以下	•	S-005474	94.3														
						37.0kW超	•	S-005473	96.2														
					50Hz、200V、極数4	容量	•	S-005472	84.8	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 機-第2- 1部:単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トック ランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 機-第2- 1部:単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トック ランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。					
						0.75kW超1.1kW以下	-	S-005471	-														
						1.1kW超1.5kW以下	•	S-005470	86.9														
						1.5kW超2.2kW以下	•	S-005469	88.6														
						2.2kW超3.0kW以下	-	S-005468	-														
						3.0kW超3.7kW以下	•	S-005467	89.4														
						3.7kW超4.0kW以下	-	S-005466	-														
						4.0kW超5.5kW以下	•	S-005465	91.9														
						5.5kW超7.5kW以下	•	S-005464	91.7														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標						
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件	
												単 位	名 称		単 位	名 称	単 位	名 称
						22.0kW超30.0kW以下	• S-005443	94.2										
						30.0kW超37.0kW以下	• S-005442	93.9										
						37.0kW超	○ S-005441	94.7										
					60Hz、220V、極数2	容量	0.75kW以下	• S-005440	86.2	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JIS C 4034- 2:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 機-第2- 1部:単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 測定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2:1.2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034- 2:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 機-第2- 1部:単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 測定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2:1.2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。
						0.75kW超1.1kW以下	○ S-005439	86.3										
						1.1kW超1.5kW以下	• S-005438	90.2										
						1.5kW超2.2kW以下	• S-005437	90.8										
						2.2kW超3.0kW以下	- S-005436	-										
						3.0kW超3.7kW以下	• S-005435	90.9										
						3.7kW超4.0kW以下	- S-005434	-										
						4.0kW超5.5kW以下	• S-005433	91.5										
						5.5kW超7.5kW以下	• S-005432	92.4										
						7.5kW超11.0kW以下	• S-005431	92.4										
						11.0kW超15.0kW以下	• S-005430	93.1										
						15.0kW超18.5kW以下	• S-005429	93.7										
						18.5kW超22.0kW以下	• S-005428	94										
						22.0kW超30.0kW以下	• S-005427	94.1										
						30.0kW超37.0kW以下	• S-005426	94										
						37.0kW超	○ S-005425	94.8										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				標準規格 による評価	L2-Tech 水準	測定単位		評価方法の タイプ	標準規格 による評価	規格の名称	計算方法		標準規格 による評価	規格の名称	試験条件	
														単位	名称				計算式	説明				
2-1						60Hz、220V、極数4	容量	0.75kW以下	•	S-005424	87.3	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評価	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 機-第2- 1部：単- 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 機-第2- 1部：単- 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。				
								0.75kW超1.1kW以下	-	S-005423	-													
								1.1kW超1.5kW以下	•	S-005422	89.1													
								1.5kW超2.2kW以下	•	S-005421	90.2													
								2.2kW超3.0kW以下	-	S-005420	-													
								3.0kW超3.7kW以下	•	S-005419	90.7													
								3.7kW超4.0kW以下	-	S-005418	-													
								4.0kW超5.5kW以下	•	S-005417	92.8													
								5.5kW超7.5kW以下	•	S-005416	92.9													
								7.5kW超11.0kW以下	•	S-005415	93.3													
								11.0kW超15.0kW以下	•	S-005414	93.6													
								15.0kW超18.5kW以下	•	S-005413	94.7													
								18.5kW超22.0kW以下	•	S-005412	94.7													
								22.0kW超30.0kW以下	•	S-005411	94.9													
								30.0kW超37.0kW以下	•	S-005410	95.7													
								37.0kW超	•	S-005409	96.3													
						60Hz、220V、極数6	容量	0.75kW以下	•	S-005408	85.3	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評価	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 機-第2- 1部：単- 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 機-第2- 1部：単- 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。				
								0.75kW超1.1kW以下	-	S-005407	-													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標													
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件								
												単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	準拠する規格	規格の名称	説 明						
								11kW超15kW以下	• S-005377	95															
								15kW超18.5kW以下	• S-005375	94.9															
								18.5kW超22kW以下	• S-005374	96.2															
								22kW超30kW以下	• S-005372	96.3															
								30kW超37kW以下	• S-005370	95.6															
								37kW超45kW以下	• S-005369	95.9															
								45kW超55kW以下	• S-005368	96.1															
								55kW超75kW以下	• S-005367	97.4															
								75kW超90kW以下	○ S-005365	96.2															
								90kW超110kW以下	○ S-005364	96.6															
								110kW超132kW以下	○ S-005363	97															
								132kW超160kW以下	○ S-005362	97.2															
								160kW超	- S-005360	-															
L-000993	産業・業 務(業種 共通)	動力他	変圧器	油入変圧器	電磁誘導を利用し、用途に応じて交流電圧を昇降させる装置。低 損失磁性体材料を使用する低損失構造とする等、損失を低減する 工夫がなされている。クラフト紙・プレスボード等の絶縁物と絶 縁油にて構成されている。	油入変圧器、三相、50Hz	定格容量	20kVA以下	• S-005358	82	W	全損失	標準規格 による評 価	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠						
								20kVA超30kVA以下	• S-005357	123															
								30kVA超50kVA以下	• S-005356	187															
								50kVA超75kVA以下	• S-005355	225															
								75kVA超100kVA以下	• S-005353	265															
								100kVA超150kVA以下	• S-005352	322															
								150kVA超200kVA以下	• S-005350	412															
								200kVA超300kVA以下	• S-005349	553															
								300kVA超500kVA以下	• S-005348	833															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	標準規格		規格の名称		計算方法		試験条件	
												単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明		
						500kVA超750kVA以下	• S-005347	1453														
						750kVA超1000kVA以下	• S-005346	1938														
						1000kVA超1500kVA以下	• S-005345	2750														
						1500kVA超2000kVA以下	• S-005344	3700														
					油入変圧器、三相、60Hz	定格容量	20kVA以下	• S-005343	72	W	全損失	標準規格 による評 価	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠				
						20kVA超30kVA以下	• S-005342	115														
						30kVA超50kVA以下	• S-005341	182														
						50kVA超75kVA以下	• S-005340	195														
						75kVA超100kVA以下	• S-005339	246														
						100kVA超150kVA以下	• S-005337	303														
						150kVA超200kVA以下	• S-005336	392														
						200kVA超300kVA以下	• S-005334	507														
						300kVA超500kVA以下	• S-005333	756														
						500kVA超750kVA以下	• S-005331	1393														
						750kVA超1000kVA以下	• S-005330	1813														
						1000kVA超1500kVA以下	• S-005328	2600														
						1500kVA超2000kVA以下	• S-005327	3365														
					油入変圧器、単相、50Hz	定格容量	10kVA以下	• S-005326	42	W	全損失	標準規格 による評 価	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠				
						10kVA超20kVA以下	• S-005325	74														
						20kVA超30kVA以下	• S-005324	100														
						30kVA超50kVA以下	• S-005323	144														
						50kVA超75kVA以下	• S-005322	159														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法		準拠する規格	規格の名称	試験条件	説明
												単位	名称				算式	算式				
						高圧蒸気仕様	容量、消費蒸気量	75kW、247kg/h	°	S-005237	0.6 *	%	消費蒸気原 単位	標準条件 による評 価	-	-	E=B/(A-C)、E:消費蒸気原単位 [-]、A:消費 蒸気量 [kW]、B:吐出空気量 [m3/min]、C: 回収熱量 [kW]	JISB8341- 2008	積形圧縮機	JISB8341-2008	積形圧縮機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量について は温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設 定することを条件とする。温水入口温度:15℃、 温水出口温度:50℃以上、また、消費蒸気量は メーカー指示値(性能表等)を参照する。
L-001004	産業・業 務(業種 共通)	動力他	モータ利 用機器 (圧縮 機)	熱回収式ねじ容 積形圧縮機	従来は、廃棄されていた圧縮熱を温水として供給可能なねじ容積 形圧縮機。コンプレッサの廃熱を温水として回収するために取水 装置から新水を通わせ、70℃の温水をボイラ給水へ戻すことで ボイラの燃料消費量が低減可能。また、直接温水利用することも 可能。	給油式	容量、熱回収量	37kW、25kW 75kW、60kW	°	S-005236 S-005235	0.41 * 0.88 *	%	エネルギー 原単位	標準条件 による評 価	JISB8341- 2008	積形圧縮機	E=B/(A-C)、E:エネルギー原単位 [-]、A:軸 動力 [kW]、B:吐出空気量 [m3/min]、C:回 収熱量 [kW]	JISB8341- 2008	積形圧縮機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量について は温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設 定することを条件とする。温水入口温度:15℃、 温水出口温度:50℃以上		
						オイルフリー式	容量、熱回収量	37kW、25kW 75kW、60kW	°	S-005780 S-005781	0.41 * 0.87 *	%	エネルギー 原単位	標準条件 による評 価	JISB8341- 2008	積形圧縮機	E=B/(A-C)、E:エネルギー原単位 [-]、A:軸 動力 [kW]、B:吐出空気量 [m3/min]、C:回 収熱量 [kW]	JISB8341- 2008	積形圧縮機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量について は温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設 定することを条件とする。温水入口温度:15℃、 温水出口温度:50℃以上		
L-001017	産業・業 務(業種 共通)	断熱	窓	Low-E複層ガラ ス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティング することで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うこと によって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるよう になる。	新築用	-	-	°	S-005234	2.5	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107.20 19及び JISR3209.20 18	板ガラス類 の熱抵抗及 び複層にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107.2019及びJISR3209.2018に準拠	JISR3107.20 19及び JISR3209.20 18	板ガラス類 の熱抵抗及 び複層にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107.2019及びJISR3209.2018に準拠。た だし、L2-Tech水準は、LE3+Ar6+FL3のガラス構成に おける数値を示す。		
L-001018	産業・業 務(業種 共通)	断熱	窓	三層Low-E複層 ガラス	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属 膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラ ス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行 うことができるようになる。	新築用	-	-	°	S-005233	0.8	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107.20 19及び JISR3209.20 18	板ガラス類 の熱抵抗及 び複層にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107.2019及びJISR3209.2018に準拠	JISR3107.20 19及び JISR3209.20 18	板ガラス類 の熱抵抗及 び複層にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107.2019及びJISR3209.2018に準拠。た だし、L2-Tech水準は、LE3+Ar1+FL3+Ar11+LE3の ガラス構成における数値を示す。		
L-001019	産業・業 務(業種 共通)	断熱	窓	真空Low-E複層 ガラス	真空ガラスとLow-Eガラスを組み合わせた複層ガラスにすること で、放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことに よって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるよう になる。	新築用	-	-	°	S-005232	0.74	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107.20 19及び JISR3209.20 18、た だし、真空 ガラスにつ いては、複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等(平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号)	板ガラス類 の熱抵抗及 び複層にお ける熱貫流 率の算定方 法、複層ガ ラス及び複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等(平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号)	JISR3107.2019及びJISR3209.2018に準拠。た だし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の 向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の 判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示 第235号)に準拠	JISR3107.20 19及び JISR3209.20 18、た だし、真空 ガラスにつ いては、複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等(平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号)	板ガラス類 の熱抵抗及 び複層にお ける熱貫流 率の算定方 法、複層ガ ラス及び複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等(平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号)	JISR3107.2019及びJISR3209.2018に準拠。た だし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の 向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の 判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示 第235号)に準拠。ただし、L2-Tech水準は、 LE3+Ar9+FL3+V0.2+LE3のガラス構成における数 値を示す。		
L-001020	産業・業 務(業種 共通)	断熱	窓	アタッチメント 付きLow-E複層 ガラス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティング することで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメン トにより、ガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、 大がかりな工事が必要としない。断熱を行うことによって、より 少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	°	S-005231	2.6	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107.20 19及び JISR3209.20 18	板ガラス類 の熱抵抗及 び複層にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107.2019及びJISR3209.2018に準拠	JISR3107.20 19及び JISR3209.20 18	板ガラス類 の熱抵抗及 び複層にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107.2019及びJISR3209.2018に準拠。た だし、L2-Tech水準は、LE3+Ar4+FL3(アタッチ メント付き)のガラス構成における数値を示す。		
L-001021	産業・業 務(業種 共通)	断熱	窓	真空ガラス	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガ ラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を 行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	°	S-005230	1	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107.20 19及び JISR3209.20 18、た だし、真空 ガラスにつ いては、複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等(平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号)	板ガラス類 の熱抵抗及 び複層にお ける熱貫流 率の算定方 法、複層ガ ラス及び複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等(平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号)	JISR3107.2019及びJISR3209.2018に準拠。た だし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の 向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の 判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示 第235号)に準拠	JISR3107.20 19及び JISR3209.20 18、た だし、真空 ガラスにつ いては、複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等(平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号)	板ガラス類 の熱抵抗及 び複層にお ける熱貫流 率の算定方 法、複層ガ ラス及び複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等(平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号)	JISR3107.2019及びJISR3209.2018に準拠。た だし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の 向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の 判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示 第235号)に準拠。ただし、L2-Tech水準は、 LE3+V0.2+FL3のガラス構成における数値を示 す。		

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	標準する規格		規格の名称	計算方法		標準する規格		規格の名称	試験条件	
												単 位	名 称		標準する規格	規格の名称		計算式	標準する規格	規格の名称	試験条件		説 明	
L-001022	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	現増施工型後付けLow-E複層ガラス	既存の窓ガラスの上からLow-Eガラスを貼ることでLow-E複層ガラスとして放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	○	S-005229	1.6	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JIS R3107:2019及びJIS R3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び複層における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:2019及びJIS R3209:2018に準拠	JIS R3107:2019及びJIS R3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び複層における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:2019及びJIS R3209:2018に準拠。ただし、L2-Tech水準は、FL6+A12+LE5のガラス構成における数値を示す。				
L-001023	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	薄型Low-E複層ガラス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントを使用せずにガラス部分のみを既存サッシに取り付けることができる。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	○	S-005228	2.5	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JIS R3107:2019及びJIS R3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び複層における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:2019及びJIS R3209:2018に準拠	JIS R3107:2019及びJIS R3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び複層における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:2019及びJIS R3209:2018に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+K12.5+FL3のガラス構成における数値を示す。				
L-001024	産業・業 務（業種 共通）	断熱	断熱材	断熱材(押出法ポリスチレンフォーム)	スチレン樹脂・発泡剤・難燃剤等を押出機中で混和・溶融し、大気中に連続的に押し出して発泡させ、成型後、板状製品に裁断加工することで製造する。	-	-	-	●	S-005227	0.022	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014	発泡プラスチック保温材または建築用断熱材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014	発泡プラスチック保温材または建築用断熱材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠				
L-001025	産業・業 務（業種 共通）	断熱	断熱材	断熱材(ガラスワール)	原材料を1400℃程度の高温で溶解、スピナーと呼ばれる繊維化装置に孔を開けることにより遠心力で繊維化し、結束剤を添加し綿状にすることで製造する。	天井用	-	-	-	●	S-005226	-	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠			
						壁用	-	-	-	●	S-005225	-	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠			
L-001026	産業・業 務（業種 共通）	断熱	断熱材	真空断熱材	家庭用冷蔵庫の断熱材として使用されている真空断熱材を使用した断熱材。住宅だけではなく非住宅のリフォーム(内貼断熱工法)にも向く。	-	-	-	●	S-005224	0.002 *	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠				
L-001027	産業・業 務（業種 共通）	乾燥	乾燥装置	蒸気リサイクル型濃縮乾燥装置	濃縮乾燥プロセスにおいて、被処理物から蒸発した蒸気は従来大気中に捨てられていたが、この蒸気を圧縮機で昇圧昇温し、被処理物の加熱源として再利用することにより、投入する化石燃料起因の蒸気量を大幅低減し、CO2排出量を削減に繋げる装置。	給水：沸点100℃（大気圧下）	蒸発能力	150Lh	●	S-005223	1.79 *	-	成績係数(COP)	実績値による評価	-	-	sysCOP=Cst*M/(Cst*S(n+Ce)*E) Cst: 水蒸気の100℃における全熱エンタルピーと25℃における顕熱エンタルピーの差(=2571kJ/kg) M: 被処理物から蒸発させた蒸気量[kg] S: ボイラー蒸気量[kg] n: 熱損失(蒸気熱量/燃料熱量) Ce: 換算係数 3.6MJ/kWh E: 電力消費量[kWh]	-	-	-	・本装置は水蒸気と電力を入力として被処理物を蒸留して濃縮・乾燥する装置であり、下記の試験で得たエネルギーのインプット(熱量換算)でアウトプット(蒸発蒸気の熱量)を除いた値(システムCOP)。・最終処分性能指標に基づき、模擬深下水の濃縮・乾燥を1m3日以上、60日以上行った際のデータに基づいて評価。・電源の周波数は50Hzとする。・ボイラーはA重油吹きとする。			
						750Lh	●	S-005222	1.79 *	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
L-001028	産業・業 務（業種 共通）	動力他	洗濯機	業務用ヒートポンプ式衣類洗濯乾燥機	洗濯機と乾燥機からなる。乾燥機部に排熱回収ヒートポンプシステムを搭載し、エバポレータにて衣類乾燥後の湿った空気から集めた熱エネルギーを圧縮機で高温にする。高温の空気をガスクーラで110℃前後の(または「最大115℃」)温風熱として放出することで衣類を乾かす。従来のガス式と比較して、効率的に排熱回収可能な排熱回収ヒートポンプシステムを採用することで、効率よく乾燥できる。導入先として、福祉施設、病院、等、幅広い施設が挙げられる。	-	乾燥能力(JIMS規格)	9kg以上	○	S-005221	9.4	kWh/回	消費電力量	標準条件による評価	JIS C 9606及びJIS C 9608	電気洗濯機、回転ドラム式電気衣類乾燥機	JIS C 9606及びJIS C 9608に準拠。ただし、洗濯乾燥1回あたりの電力消費量は、試験(4回以上)によって得られた値の平均値とする。	JIS C 9606及びJIS C 9608	電気洗濯機、回転ドラム式電気衣類乾燥機	JIS C 9606及びJIS C 9608に準拠。ただし、処理物・処理条件は以下の通りとする。<処理物>被処理物: JIMS規格による標準洗濯乾燥容量の積100%バスタブル<処理条件>定格電圧: 三相交流200V 被処理物あたり水量: 5.0Lkg以上 被処理物あたり洗濯時間: 洗濯、すすぎ、脱水工程で各0.5min/kg以上 被処理物あたり乾燥時間: 4.0min/kg以下 回転速度: 設定できる最速の設定(乾燥工程はメーカー推奨の回転速度) 乾燥度(洗濯乾燥後): 97%以上 試験回数: 4回以上				
L-001032	産業・業 務（業種 共通）	エネルギー マネジメント	エネルギー マネジメント	BEMS(制御サービス、空調・熱源、中央方式)	オフィスビルにおけるエネルギー管理システム、及び同システムを用いたサービスのうち、セントラル空調を対象とした制御サービス。	空気熱源仕様	-	-	-	●	S-005220	-	%	エネルギー消費効率	具備機能による評価	-	-	-	-	-	-			
						水熱源仕様	-	-	-	●	S-005219	-	%	エネルギー消費効率	具備機能による評価	-	-	-	-	-	-	-		
L-001038	産業・業 務（業種 共通）	動力他	その他	サーバ用電子計算機	ネットワーク上でサービス等を提供する24時間稼働することを前提として設計された電子計算機であって、専らネットワークを介してアクセスされる。サーバ型電気駆動機に搭載されているCPUは専用OISC、RISC、IA64、IA32の4つに分類され、IA64、IA32といった汎用CPUはエネルギー消費効率が高い。	H※区分は省エネルギー法による	-	-	-	○	S-005218	-	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格による評価	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件				
						※区分は省エネルギー法による	-	-	-	○	S-005217	-	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格による評価	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件				
						J※区分は省エネルギー法による	-	-	-	○	S-005216	-	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格による評価	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件				
						K※区分は省エネルギー法による	-	-	-	○	S-005215	-	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格による評価	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件				

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測 定 単 位	評価方法の タイプ		計 算 方 法		試 験 条 件			
													単 位	名 称	準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
												W/GTOPS	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める計算式	省エネルギー 法	省エネルギー法 で定める試験条件		
L-001054	産業(業 種固有)	建設	オフロー ド特殊自 動車(建 設機械・ 内燃機関 型)	油圧ショベル (内燃機関型)	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。低燃費型エンジンや、情報化施工による効率的な作業の実施により低炭素化を図ることで、CO2排出量の削減が可能となる。	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満	-	S-005213	-	-	kg/標準作 業	燃費	標準規格 による評 価	JCMASH020: 2014または JCMASH020: 2010	土工機械— エネルギー 消費量試験 方法—油圧 ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020: 2014または JCMASH020: 2010	土工機械— エネルギー 消費量試験 方法—油圧 ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠
							0.36 m3以上0.47 m3未満	-	S-005212	-	-									
							0.47 m3以上0.55 m3未満	-	S-005211	-	-									
							0.55 m3以上0.70 m3未満	-	S-005210	-	-									
							0.70 m3以上0.90 m3未満	-	S-005209	-	-									
							0.90 m3以上1.05 m3未満	-	S-005207	-	-									
							1.05 m3以上1.30 m3未満	-	S-005206	-	-									
							1.30 m3以上1.70 m3未満	-	S-005205	-	-									
L-001055	産業(業 種固有)	建設	オフロー ド特殊自 動車(建 設機械・ 内燃機関 型)	ブルドーザ(内 燃機関型)	土砂の掘削、押し、盛土、整地作業等に用いられる機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。ディーゼルエンジンの性能向上や、アイドリングの自動停止機能等の装備の他、情報化施工にも対応しており、低炭素化が可能となっている。	定格出力	19kW以上75kW未満	-	S-005204	-	-	g/kWh	燃費	標準規格 による評 価	JCMASH021: 2010	土工機械— 燃料消費量 試験方法	JCMASH021:2010に準拠	JCMASH021: 2010	土工機械— 燃料消費量 試験方法	JCMASH021:2010に準拠
							75kW以上170kW未満	-	S-005202	-	-									
							170kW以上300kW未満	-	S-005201	-	-									
L-001056	産業(業 種固有)	建設	オフロー ド特殊自 動車(建 設機械・ 内燃機関 型)	ホイールローダ (内燃機関型)	建設現場で使用される重機の一つ。前方に設置されたバケットで土石をすくいあげ、トラック等に積み込む機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。低燃費型のエンジンや、情報化施工による効率的な作業の実施により低炭素化を図ることで、CO2排出量の削減が可能となる。	定格出力	40kW以上110kW未満	-	S-005199	-	-	g/l	燃費	標準規格 による評 価	JCMASH022: 2015または JCMASH022: 2010	土工機械— エネルギー 消費量試験 方法—ホイ ールロー ダまたは土 工機械—燃 料消費量試 験方法—ホ イールロー ダ	JCMASH022:2015またはJCMASH022:2010に準拠	JCMASH022: 2015または JCMASH022: 2010	土工機械— エネルギー 消費量試験 方法—ホ イールロー ダ	JCMASH022:2015またはJCMASH022:2010に準拠
							110kW以上230kW未満	-	S-005807	-	-									
L-001058	産業(業 種固有)	建設	オフロー ド特殊自 動車(建 設機械・ ハイブリ ッド型)	油圧ショベル (ハイブリッド 型)	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。ハイブリッド型は、動力としてエンジンと電気モータを組み合わせた油圧ショベル。旋回減速時のエネルギーを回収して電気エネルギーとして蓄電し、加速時の補助エネルギーとして利用することで、エンジンで消費される軽油消費量を低減し、CO2排出量の削減が可能となる。	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満	-	S-005198	-	-	kg/標準作 業	燃費	標準規格 による評 価	JCMASH020: 2014または JCMASH020: 2010	土工機械— エネルギー 消費量試験 方法—油圧 ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020: 2014または JCMASH020: 2010	土工機械— エネルギー 消費量試験 方法—油圧 ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠
							0.70 m3以上0.90 m3未満	-	S-005196	-	-									
L-001061	産業(業 種固有)	建設	オフロー ド特殊自 動車(建 設機械・ 電気型)	油圧ショベル (電気型)	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。電動型は、動力として電気モータを使用する油圧ショベル。従来型の油圧ショベルで燃料として使用されていた軽油を電力で代替することにより、CO2排出量の削減が可能となる。	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満	-	S-005195	-	-	kWh/標準 作業	電力消費量	標準規格 による評 価	JCMASH020: 2014または JCMASH020: 2010	土工機械— エネルギー 消費量試験 方法—油圧 ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020: 2014または JCMASH020: 2010	土工機械— エネルギー 消費量試験 方法—油圧 ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
														単位	名称	準拠する規格	規格の名称	準拠する規格	規格の名称	説明			
										S-005763	20		成績係数 (COP)	標準条件 による評 価			COP=Q/P、COP：成績係数、Q：プロセス流体 の蒸発潜熱で消費した熱エネルギー [kW]、P： 圧縮機で消費した電気エネルギー [kW]			加熱面での蒸気温度：76℃、加熱側圧力： 39.3kPa、圧縮機圧縮温度：6℃			
L-001092	運輸	自動車	自動車 (内燃機 関型)	ガソリン・ ディーゼル車 (乗用車)	(ガソリン車)ガソリンエンジンを搭載した自動車、国内における 乗用車の大半がガソリン車である。(ディーゼル車)ディーゼルエ ンジンを搭載した自動車。	ガソリン車、軽自動車	軽自動車	-	S-005143	-	km/l	燃費	標準規格 による評 価	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠				
						ガソリン車、小型自動車	SUV	-	S-005142	-	km/l	燃費	標準規格 による評 価	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠				
							コンパクトカー	-	S-005140	-													
							セダン	-	S-005139	-													
							ミニバン	-	S-005138	-													
							ワゴン	-	S-005137	-													
						ガソリン車、普通自動車	SUV	-	S-005136	-	km/l	燃費	標準規格 による評 価	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠				
							スポーツカー	-	S-005135	-													
							セダン	-	S-005134	-													
							ミニバン	-	S-005132	-													
							ワゴン	-	S-005131	-													
						ディーゼル車、小型自動車	コンパクトカー	-	S-005130	-	km/l	燃費	標準規格 による評 価	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠				
ディーゼル車、普通自動車	SUV	-	S-005129	-	km/l	燃費	標準規格 による評 価	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠										
	セダン	-	S-005128	-																			
	ミニバン	-	S-005127	-																			
	ワゴン	-	S-005126	-																			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	参照する規格	計算方法		参照する規格	規格の名称	試験条件				
												単位	名称			計算式	計算式			説明				
L-001093	運輸	自動車	自動車 (内燃機 関連)	ディーゼル・天 然ガス車(商用 車・重量車)	(ディーゼル車)ディーゼルエンジンを搭載した自動車。(天然ガス 車)現在、国内で使用されている天然ガス自動車の多くは、ディー ゼル車やガソリン車をベースとし、改造することによって天然ガ ス車として走行している。一方、メーカーにおいては圧縮天然ガ ス(CNG)エンジンの開発も進められている。	貨物自動車、トラクタ	区分1※区分は省エネルギー法による	-	S-005125	-	km/l	燃費	標準規格 による評 価	-	国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モードそ れぞれによ る走行を車 種等によっ て異なる割 合で合算し た燃費値)	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モードそ れぞれによ る走行を車 種等によっ て異なる割 合で合算し た燃費値)	国土交通省審査で定める試験条件					
							区分2※区分は省エネルギー法による	-	S-005123	-														
							区分1※区分は省エネルギー法による	-	S-005122	-	km/l	燃費	標準規格 による評 価	-	国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モードそ れぞれによ る走行を車 種等によっ て異なる割 合で合算し た燃費値)	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モードそ れぞれによ る走行を車 種等によっ て異なる割 合で合算し た燃費値)	国土交通省審査で定める試験条件					
										区分2※区分は省エネルギー法による	-	S-005121	-											
										区分3※区分は省エネルギー法による	-	S-005120	-											
										区分4※区分は省エネルギー法による	-	S-005119	-											
										区分5※区分は省エネルギー法による	-	S-005118	-											
										区分6※区分は省エネルギー法による	-	S-005116	-											
										区分7※区分は省エネルギー法による	-	S-005115	-											
										区分8※区分は省エネルギー法による	-	S-005114	-											
										区分9※区分は省エネルギー法による	-	S-005113	-											
										区分10※区分は省エネルギー法による	-	S-005111	-											
										区分11※区分は省エネルギー法による	-	S-005108	-											
										乗用自動車、一般バス	-	区分1※区分は省エネルギー法による	-	S-005107	-	km/l	燃費	標準規格 による評 価	-	国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モードそ れぞれによ る走行を車 種等によっ て異なる割 合で合算し た燃費値)	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モードそ れぞれによ る走行を車 種等によっ て異なる割 合で合算し た燃費値)	国土交通省審査で定める試験条件
												区分2※区分は省エネルギー法による	-	S-005106	-									
						区分3※区分は省エネルギー法による	-	S-005105	-															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			認 証 対 象	測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法		準拠する規格	規格の名称	試験条件	説 明
												単 位	名 称				計 算 式	計 算 式				
L-001096	運輸	自動車	自動車 (ハイブリッド 型)	ハイブリッド自動 車(商用車・ 重量車)	動力として内燃機関と電気モータを組み合わせた自動車。一時的 にエネルギーをバッテリーやキャパシタに貯蔵し、必要に応じて電 気モータを介して動力とする。効率の低いエンジン作動領域にハ イブリッド技術を使うことにより高効率運転が可能となる。	トラクタ以外	-	-	S-005082	-	km/l	燃費	標準規格 による評 価	-	区1※区分は省エネ ルギー法による	国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モードそ れぞれによ る走行を車 種等によっ て異なる割 合で合算し た燃費値)	国土交通省 審査で定める計算式	-	区1※区分は省エネ ルギー法による	国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モードそ れぞれによ る走行を車 種等によっ て異なる割 合で合算し た燃費値)	国土交通省 審査で定める試験条件	
									S-005081	-					区2※区分は省エネ ルギー法による							
									S-005080	-					区3※区分は省エネ ルギー法による							
									S-005079	-					区4※区分は省エネ ルギー法による							
									S-005078	-					区5※区分は省エネ ルギー法による							
L-001098	運輸	自動車	自動車 (電気 型)	電気自動車(兼 用車)	従来の内燃機関のかわりに、バッテリーに充電した電力を動力源 としてモータで走行する自動車。	軽自動車	-	軽自動車	S-005076	-	Wh/km	交流充電電 力消費量	標準規格 による評 価	JISD1301:2 011に基づく JC08モード	電気自動車 -一充電走行 距離及び交 流充電電力 消費量年試 験方法に基 づくJC08 モード	JISD1301:20011に基づくJC08モードに準拠	JISD1301:2 011に基づく JC08モード	電気自動車 -一充電走行 距離及び交 流充電電力 消費量年試 験方法に基 づくJC08 モード	JISD1301:20011に基づくJC08モードに準拠			
						普通自動車	-	ワゴン	S-005075	-	Wh/km	交流充電電 力消費量	標準規格 による評 価	JISD1301:2 011に基づく JC08モード	電気自動車 -一充電走行 距離及び交 流充電電力 消費量年試 験方法に基 づくJC08 モード	JISD1301:20011に基づくJC08モードに準拠	JISD1301:2 011に基づく JC08モード	電気自動車 -一充電走行 距離及び交 流充電電力 消費量年試 験方法に基 づくJC08 モード	JISD1301:20011に基づくJC08モードに準拠			
L-001106	家庭	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ)	家庭用エコ キュート	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃ 以上の高温沸きあげ可能な高効率な給湯システム。ヒートポン プユニットと給湯(貯湯)ユニットで構成されている。	一般地仕様、少人数世帯、 保温あり	貯湯容量	185L	S-005074	2.8	-	年間給湯保 温効率	標準規格 による評 価	JISC9220:2 011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2 011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠			
						一般地仕様、標準世帯、保 温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-005073	4	-	年間給湯保 温効率	標準規格 による評 価	JISC9220:2 011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2 011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠			
						一般地仕様、標準世帯、保 温あり、多缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-005072	3	-	年間給湯保 温効率	標準規格 による評 価	JISC9220:2 011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2 011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠			
						一般地仕様、標準世帯、保 温なし、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-005071	3.3	-	年間給湯効 率	標準規格 による評 価	JISC9220:2 011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2 011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠			
						寒冷地仕様、標準世帯、保 温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-005070	3.3	-	寒冷地年間 給湯保温効 率	標準規格 による評 価	JISC9220:2 011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2 011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠			
						寒冷地仕様、標準世帯、保 温なし、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-005069	2.9	-	寒冷地年間 給湯効率	標準規格 による評 価	JISC9220:2 011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2 011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠			
L-001107	家庭	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ)	多機能ヒートポ ンプ給湯機	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃ 以上の高温沸きあげ可能な高効率な給湯システム。ヒート ポンプユニットと給湯(貯湯)ユニット、床暖房端末で構成され ている。1台のヒートポンプによって給湯、および床暖房が可能で あるため、高効率化が可能。	一般地仕様、標準世帯、保 温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-005067	3.9	-	年間給湯保 温効率(床 暖房部分除 く)	標準規格 による評 価	JISC9220:2 011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2 011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠			
						寒冷地仕様、標準世帯、保 温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-005066	3	-	寒冷地年間 給湯保温効 率(床暖房 部分除く)	標準規格 による評 価	JISC9220:2 011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2 011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠			
L-001108	家庭	給湯	給湯器 (ガス 式)	ガス温水機器 (エコジョー ズ)	ガスを燃料としたバーナによって加熱した高温の空気により配管 内の水を温める機器。	給湯専用機	-	-	S-005064	95	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JISS2109:2 10R	家庭用ガス 温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:2 010	家庭用ガス 温水機器の 試験方法	JISS2093:2010に準拠			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	標準する規格		計算方法		試験条件	
												単位	名称		標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	試験条件
										S-005063	93	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JISS2112:20 11及び JISS2109:20 10R	家庭用ガス 温水熱源機 及び家庭用 ガス温水機 器	JISS2112:2011及びJISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:20 10	家庭用ガス 燃焼機器の 試験方法	JISS2093:2010に準拠
										S-005062	87	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JISS2112:20 11	家庭用ガス 温水熱源機	JISS2112:2011に準拠	JISS2093:20 10	家庭用ガス 燃焼機器の 試験方法	JISS2093:2010に準拠
										S-005061	95.1	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JISS2109:20 10R	家庭用ガス 温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:20 10	家庭用ガス 燃焼機器の 試験方法	JISS2093:2010に準拠
L-001109	家庭	給湯	コージェ ネレー ション	家庭用燃料電池 (エネファ ーム・PEFC)	燃料電池は燃料から直接電気エネルギーを取り出すことができ、化石燃料を燃焼させる従来の発電システムに比べて、高い発電効率、優れた環境特性、排熱利用による高い総合効率、量産による低コスト化の可能性等の特長を持つ。発電の原理は、電解質を挟んだ二つの電極に酸素と水を供給して電気と熱を発生させるというものである。PEFC（固体高分子形燃料電池）は、電解質に固体高分子を用い、動作温度は80～100℃、白金が触媒として使われており、都市ガス、LPG（液化石油ガス）を燃料としている。排熱効率が高く、SS（Daily Start and Stop）が容易である。ここでは、主に家庭用として用いられる製品を取り扱う（現行販売製品の電気の定格出力は1kW以下）。	定格内容積				S-005060	95	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISC8823:20 08	小形固体高 分子形燃料 電池システ ムの安全性 及び性能試 験方法	JISC8823:2008に準拠	JISC8823:20 08	小形固体高 分子形燃料 電池システ ムの安全性 及び性能試 験方法	JISC8823:2008に準拠
										S-005059	39	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISC8823:20 08	小形固体高 分子形燃料 電池システ ムの安全性 及び性能試 験方法	JISC8823:2008に準拠	JISC8823:20 08	小形固体高 分子形燃料 電池システ ムの安全性 及び性能試 験方法	JISC8823:2008に準拠
L-001110	家庭	給湯	コージェ ネレー ション	家庭用燃料電池 (エネファ ーム・SOFC)	SOFC（固体酸化物形燃料電池）は、電解質にセラミックを用い、動作温度は700～750℃である。発電効率がよく24時間運転が多い。ここでは、主に家庭用として用いられる製品を取り扱う（現行販売製品の電気の定格出力は1kW以下）。	燃料：都市ガス（13A、12A）				S-005058	87	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISC8841- 3:2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3 部：性能試 験方法及び 環境試験方 法	JISC8841-3:2011に準拠	JISC8841- 3:2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3 部：性能試 験方法及び 環境試験方 法	JISC8841-3:2011に準拠
										S-005056	52	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISC8841- 3:2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3 部：性能試 験方法及び 環境試験方 法	JISC8841-3:2011に準拠	JISC8841- 3:2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3 部：性能試 験方法及び 環境試験方 法	JISC8841-3:2011に準拠
						燃料：LPガス				S-005759	85	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISC8841- 3:2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3 部：性能試 験方法及び 環境試験方 法	JISC8841-3:2011に準拠	JISC8841- 3:2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3 部：性能試 験方法及び 環境試験方 法	JISC8841-3:2011に準拠
										S-005758	51	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISC8841- 3:2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3 部：性能試 験方法及び 環境試験方 法	JISC8841-3:2011に準拠	JISC8841- 3:2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3 部：性能試 験方法及び 環境試験方 法	JISC8841-3:2011に準拠
L-001111	家庭	厨房	冷凍冷蔵 機器	電気冷蔵庫	冷凍を用いて圧縮-凝縮-膨張-蒸発の冷凍サイクルを繰り返すことにより庫内を冷却する冷蔵庫。インバータ制御の高効率コンプレッサーと熱伝導が小さい真空断熱材を使用することにより消費電力量を削減することが可能である。（大型冷蔵庫の一部では既に採用されている）冷凍と断熱材にフロンを使用していない冷蔵庫のことを、ノンフロン冷蔵庫と呼び、現在出荷されている家庭用冷蔵庫のほとんどはイソブタン（冷媒）、シクロペンタン（断熱材発泡剤）を使用したノンフロン冷蔵庫である。冷蔵庫の冷却方法には直冷式と間冷式があり、一般に直冷式のほうが効率が低い。しかし、日本は湿度が高く、冷却後表面に霜がついて冷却能力が落ちるため、間冷式が主流である。	定格内容積	140L以下			S-005054	-	kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISC9801- 3:2015	家庭用電気 冷蔵庫及び 電気冷凍庫 の特性及び 試験方法一 第3部：消 費電力量及 び内容積の 算出	JISC9801-3:2015に準拠	JISC9801- 3:2015	家庭用電気 冷蔵庫及び 電気冷凍庫 の特性及び 試験方法一 第3部：消 費電力量及 び内容積の 算出	JISC9801-3:2015に準拠
							140L超200L以下			S-005053	-									
							200L超250L以下			S-005052	-									
							250L超300L以下			S-005051	-									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
												単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称	標準規格 による評価	規格の名称	標準規格 による評価	規格の名称	
						300L超350L以下	-	S-005050	-												
						350L超400L以下	-	S-004995	-												
						400L超450L以下	-	S-004994	-												
						450L超500L以下	-	S-004992	-												
						500L超	-	S-004991	-												
L-001112	家庭	照明	照明器具	LED照明器具 (家庭用)	蛍光灯や白熱灯と比較して高効率で長寿命な白色LED(発光ダイオード)を光源に使用した照明器具が普及している。LED照明は、主に直付け(シーリング)カバー付型、ダウンライト型、電球型があり、他にスポットライト型、ブラケット型などもある。LED素子が器具に取り付けられ、ランプ交換は無いものが大半である。光の広がり(ビームの開き)を広くしたものの、発光色を切り替えるもの等が登場している。一般的には、「温白色、電球色」よりも「昼白色、昼白色、白色」の方がエネルギー効率 (lmW) は高くなる。	シーリングライト型	適用差数	～4.5畳	-	S-004988	-	lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語
						～6畳	○	S-004987	155.4												
						～8畳	●	S-004985	170.5												
						～10畳	●	S-004984	174.3												
						～12畳	●	S-004983	172.9												
						～14畳	●	S-004982	172.7												
						ダウンライト型、昼白色、電球色、配光角30°以下	-	S-004980	-			lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	
						ダウンライト型、昼白色、電球色、配光角30°超60°以下	-	S-004975	93.3			lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	
						ダウンライト型、昼白色、電球色、配光角60°超	-	S-004974	109.4			lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	
						ダウンライト型、昼白色、配光角30°以下	-	S-004972	111.1			lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	
						ダウンライト型、昼白色、配光角30°超60°以下	-	S-004971	106			lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	
						ダウンライト型、昼白色、配光角60°超	-	S-004970	112.1			lmW	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		説明			
												単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称	標準規格 による評価	規格の名称				
						ペンダントライト型	適用畳数	~4.5畳	• S-004968	125.1	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部-性能要求事項-通、照明器具-第5部-配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部-性能要求事項-通、照明器具-第5部-配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠		
								~6畳	• S-004967	138.7												
								~8畳	• S-004965	133.4												
								~10畳	○ S-004963	100												
								~12畳	• S-004961	137.4												
								~14畳	- S-004960	-												
						電球形LEDランプ細辺型、温白色、電球色、電球形LEDランプ2灯以上	-	-	• S-004958	114.9	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部-性能要求事項-通、照明器具-第5部-配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部-性能要求事項-通、照明器具-第5部-配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠		
						電球形LEDランプ細辺型、昼白色、昼光色、白色、電球形LEDランプ2灯以上	-	-	○ S-004957	84.4	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部-性能要求事項-通、照明器具-第5部-配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部-性能要求事項-通、照明器具-第5部-配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠		
L-001113	家庭	断熱	窓	Low-E複層ガラス(家庭用)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	新築用	-	-	○ S-004956	2.5	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+A6+FL3のガラス構成における数値を示す。		
L-001114	家庭	断熱	窓	三層Low-E複層ガラス(家庭用)	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	新築用	-	-	○ S-004955	0.8	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+Ar11+FL3+Ar11+LE3のガラス構成における数値を示す。		
L-001115	家庭	断熱	窓	真空Low-E複層ガラス(家庭用)	真空ガラスとLow-Eガラスを組み合わせた複層ガラスにすることで、放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	新築用	-	-	○ S-004954	0.74	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	板ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠		

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		説明		
												単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称	標準規格 による評価	規格の名称			
L-001116	家庭	断熱	窓	アタッチメント付きLow-E複層ガラス(家庭用)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントにより、ガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、大がかりな工事を必要としない。断熱を行うことにより、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	リフォーム用	-	-	○	S-004953	2.6	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+A4+FL3(アタッチメント付き)のガラス構成における数値を示す。	
L-001117	家庭	断熱	窓	真空ガラス(家庭用)	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことにより、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	リフォーム用	-	-	○	S-004952	1	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+A0.2+FL3のガラス構成における数値を示す。	
L-001118	家庭	断熱	窓	現場施工型後付けLow-E複層ガラス(家庭用)	既存の窓ガラスの上からLow-Eガラスを貼ることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことにより、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	○	S-004951	1.6	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、L2-Tech水準は、FL6+A12+LE50のガラス構成における数値を示す。	
L-001119	家庭	断熱	窓	薄型Low-E複層ガラス(家庭用)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントを使用せずにガラス部分のみを既存サッシに取り付けることができる。断熱を行うことにより、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	リフォーム用	-	-	○	S-004950	2.5	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+K12.5+FL3のガラス構成における数値を示す。	
L-001120	家庭	空調	窓	Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、樹脂製のサッシを組み合わせた窓。	FIX	-	-	●	S-004949	1.27	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。	
						引き違い	-	-	●	S-004948	1.46	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。	
						縦すべり出し	-	-	●	S-004947	1.27	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		説明		
												単位	名称		標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称			
L-001127	家庭	空調	玄関ドア	金属製玄関ドア	住宅の玄関に使用する。アルミニウムまたはスチールを主材料としたドアにおいて、枠の内側に樹脂を使用して中空部に断熱材を充填。また扉も同様に中空部に断熱材を充填する事で玄関ドアの熱貫流率を低くすることができる。熱貫流率が低い製品ほど冷暖房負荷及びCO2排出量が削減できる。	-	-	-	-	●	S-004882	0.89	W/m ² K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの数値計算方法	JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。	JISA4710:2015	建具の断熱性試験方法	JISA4710:2015に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-001128	家庭	断熱	断熱材	断熱材(家庭用・押出法ポリスチレンフォーム)	スチレン樹脂・発泡剤・難燃剤等を押出機中で混和・溶融し、大気中に連続的に押し出して発泡させ、成型後、板状製品に裁断加工することで製造する。	-	-	-	-	●	S-004881	-	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014	発泡プラスチック保温材または建築用断熱材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	
L-001129	家庭	断熱	断熱材	断熱材(家庭用・グラスウール)	原材料を1400℃程度の高温で溶解、スピナーと呼ばれる繊維化装置に孔を開けることにより遠心力で繊維化し、結束剤を添加し綿状にすることで製造する。	天井用	-	-	-	●	S-004880	-	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠
						壁用	-	-	-	●	S-004879	-	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠
L-001130	家庭	断熱	断熱材	真空断熱材(家庭用)	家庭用冷蔵庫に使用されている、真空断熱材を使用した断熱材。従来の断熱材と比較して薄いため、天井や壁、床等への部分断熱等のリフォーム(内貼断熱工法)に向く。	-	-	-	●	S-004877	0.002	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA1412:2016	断熱材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠	JISA1412:2016	断熱材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠	
L-001131	家庭	動力他	洗濯機	洗濯乾燥機	洗濯乾燥機とは、洗濯機と衣類乾燥機が一体化した機器である。ヒートポンプシステム(ユニット)が熱交換した熱で衣類を乾燥し、乾燥時に発生する水蒸気もヒートポンプシステム(ユニット)により冷却して除湿している。乾燥時の温度は約70℃前後である。	-	-	-	○	S-004876	0.59	kWh/回	消費電力量	標準規格による評価	-	一般社団法人日本電機工業会「洗濯性能評価方法」「乾燥性能評価方法」	一般社団法人日本電機工業会・自主基準「洗濯性能評価方法」「乾燥性能評価方法」で定める計算式	一般社団法人日本電機工業会・自主基準「洗濯性能評価方法」	一般社団法人日本電機工業会・自主基準「洗濯性能評価方法」「乾燥性能評価方法」で定める試験条件		
L-001135	家庭	エネルギーマネジメント	エネルギーマネジメントシステム	HEMS(情報提供サービス・家電全般)	一般家庭等での省エネ効果高めるエネルギー管理システム、及び同システムを用いたサービスのうち、家庭全体のエネルギー消費状況の把握や省エネ・節電を目的とした情報提供サービス。	-	-	-	○	S-004874	-	%	エネルギー消費効率	具備機能による評価	-	-	-	-	-		
L-001137	家庭	空調	空調機	ルームエアコン(ヒートポンプ)	冷暖による圧縮-凝縮-膨張-蒸発のヒートポンプサイクルを繰り返すことにより、室内を冷房あるいは暖房する空気調和機。	冷房能力	2.2kW	●	S-004872	7.6	-	通年エネルギー消費効率(APF)	標準規格による評価	JISC9612:2005	ルームエアコンディショナ	JISC9612:2005に準拠	JISC9612:2005	ルームエアコンディショナ	JISC9612:2005に準拠		
						2.5kW	●	S-004871	7.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
						2.8kW	●	S-004869	7.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
						3.6kW	●	S-004863	7.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
						4.0kW	●	S-004862	7.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
						4.5kW	○	S-004861	6.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
						5.0kW	○	S-004859	6.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
						5.6kW	●	S-004858	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
						6.3kW	●	S-004830	6.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
						7.1kW	●	S-004823	6.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
8.0kW	●	S-004822	6.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-								

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法		準拠する規格	規格の名称	試験条件	
												単位	名称				計算式	説明				
											142.3	-	年間給湯効 率	標準規格 による評 価	JGKAS A705-2016	電気ヒート ポンプ・ガ ス瞬間式併 用型給湯機 (ハイフ リッド給湯 機)の年間 給湯効率測 定方法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒート ポンプ・ガ ス瞬間式併 用型給湯機 (ハイフ リッド給湯 機)の年間 給湯効率測 定方法	JGKAS A705-2016に準拠		
											142.3	-	年間給湯効 率	標準規格 による評 価	JGKAS A705-2016	電気ヒート ポンプ・ガ ス瞬間式併 用型給湯機 (ハイフ リッド給湯 機)の年間 給湯効率測 定方法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒート ポンプ・ガ ス瞬間式併 用型給湯機 (ハイフ リッド給湯 機)の年間 給湯効率測 定方法	JGKAS A705-2016に準拠		
L-001147	家庭	給湯	給湯器 (石油 式)	石油温水機器 (エコフィ ール)	石油温水機器は灯油を燃料としたバーナによって加熱した高温の 空気により配管内の水を温める機器である。	給湯用のもの(風呂給湯含 む)	-	-	●	S-004761	95	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JISS3031:20 09	石油燃焼機 器の試験方 法通則	JISS3031:2009に準拠	JISS3031:20 09	石油燃焼機 器の試験方 法通則	JISS3031:2009に準拠		
						暖房用のもの	-	-	○	S-004760	93	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JISS3031:20 09	石油燃焼機 器の試験方 法通則	JISS3031:2009に準拠	JISS3031:20 09	石油燃焼機 器の試験方 法通則	JISS3031:2009に準拠		
L-001149	家庭	給湯	給湯器 (太陽熱 利用)	真空管集熱器 (強制循環型太陽熱給湯器用) (家庭用)	太陽の光エネルギーを熱エネルギーに変え、水などの熱媒に伝える 役割の装置。真空管形は集熱部が真空層を有する二重ガラスで 構成され、真空層が空気対流による熱損失を防ぐことができる。 外気温との温度差が大きい場合でも集めた熱が外へ逃げにくく、 高い効率を維持できる。	-	-	●	S-004676	12694	kJ/m ² ・日	単位面積1日 あたりの集 熱量	標準規格 による評 価	JISA4112:20 11	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	JISA4112:20 11	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠			
L-001150	家庭	給湯	給湯器 (太陽熱 利用)	平板形集熱器 (強制循環型太陽熱給湯器用) (家庭用)	太陽の光エネルギーを熱エネルギーに変え、水などの熱媒に伝える 役割の装置。平板形は集熱面が平板状になっており、表面は透 明な強化ガラス板で覆われている。下部には熱が逃げないよう、 断熱材が施されている。	-	-	○	S-004675	13954	kJ/m ² ・日	単位面積1日 あたりの集 熱量	標準規格 による評 価	JISA4112:20 11	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	JISA4112:20 11	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠			
L-001151	家庭	給湯	給湯器 (太陽熱 利用)	蓄熱槽(強制循 環型太陽熱給湯 器用)(家庭 用)	蓄熱槽は、集熱器で集められた熱を熱交換してお湯を蓄える装 置。	-	-	●	S-004673	1.54	WK	熱損失係数	標準規格 による評 価	JISA4113:20 13	太陽蓄熱槽	$KA = (V \cdot Cp \cdot p \cdot (\theta_s - \theta_e)) + (T \cdot \Delta \theta) \cdot \Delta \theta = ((\theta_s + \theta_e) \cdot 2) - ((\theta_1 + \theta_2 + \dots + \theta_n) + n)$ KA: 熱損失係数[W/K] V: 蓄熱槽容量[m ³] θ _s : 試験開始時蓄熱媒体温度[°C] θ _e : 試験終了時蓄熱媒体温度[°C] T: 試験開始から試験終了までの時間[s] Cp: 蓄熱媒体の定比熱[J/(kg・K)] p: 蓄熱媒体の密度[kg/m ³] θ _n : 周囲温度[°C] n: 1時間ごとに測定した周囲温度の測定回数	JISA4113:20 13	太陽蓄熱槽	JISA4113:2013に準拠			
						-	-	○	S-004672	93.2	%	有効出湯効 率	標準規格 による評 価	JISA4113:20 13、BLT SO.2015、ま たはSS- TS002	太陽蓄熱 槽、優良性 宅部品性能 試験方法書 太陽熱利用 システム、 または有効 出湯効率試 験	JISA4113:2013、BLT SO.2015、またはSS-TS002に準拠	JISA4113:20 13、BLT SO.2015、ま たはSS- TS002	太陽蓄熱 槽、優良性 宅部品性能 試験方法書 太陽熱利用 システム、 または有効 出湯効率試 験	JISA4113:2013、BLT SO.2015、またはSS-TS002に準拠			
L-001152	家庭	動力他	テレビ	液晶テレビ	液晶テレビとは表示装置に液晶を用いた薄型のテレビ受像機をい う。従来はバックライトにCCFL(Cold Cathode Fluorescent Lamp:冷 陰極管)を用いていたが、近年は発光効率の良いLED(発光ダイオー ド)が主流となっている。	サイズ	液晶 18V、19V 型	-	S-004756	-	-	kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	省エネレ ギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネレ ギー法	省エネルギー法で定める試験条件			
						液晶 22V 型	-	S-004754	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
						液晶 23V、24V 型	-	S-004752	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
						液晶 26V 型	-	S-004751	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
						液晶 29V 型	-	S-004750	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
						液晶 32V 型	-	S-004748	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
						液晶 39V、40V 型	-	S-004747	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法		準拠する規格	規格の名称	試験条件	
												単 位	名 称				計算式	説 明				
L-001164	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	トランスレス方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	太陽光発電用パワーコンディショナは、直流電力を調整するコンバータ、直流電力を交流電力に変換するインバータ、事故時等に系統を保護する系統連系保護装置で構成される。トランスレス方式は、パワーコンディショナ内の直流電圧調整をコンバータのみで行う方式であり、高周波変圧器絶縁方式と比較し、高効率となるものの電力会社系統との連系には、別途変圧器が必要となる。	-	出力	10kW未満	○	S-004660	98	%	定格負荷効率	標準規格による評価	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	$\eta R = P_0 / P_i \times 100$ 、 ηR : 定格負荷効率[%]、 P_0 : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの出力[kW]、 P_i : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの入力[kW]	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠		
L-001165	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	高周波変圧器絶縁方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	太陽光発電用パワーコンディショナは、直流電力を交流電力に変換するインバータ、事故時等に系統を保護する系統連系保護装置で構成される。直流電力を交流電力に変換する際に損失が生じることから、変換効率(定格負荷効率)の高いパワーコンディショナの選定が重要となる。高周波変圧器絶縁方式は、パワーコンディショナ内の直流電圧調整をコンバータと変圧器の組み合わせで行う方式であり、トランスレス方式と比較し、電力変換効率は低下するが、パワーコンディショナから出力された電力はそのまま電力会社系統と連系可能となる。	-	-	-	○	S-004657	96.5	%	定格負荷効率	標準規格による評価	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	$\eta R = P_0 / P_i \times 100$ 、 ηR : 定格負荷効率[%]、 P_0 : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの出力[kW]、 P_i : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの入力[kW]	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠		
L-001172	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	水力発電	フロベラ水車(小水力発電用)	水を取り込むケーシングから案内羽根を経て下向きの水流に変化させ、羽根車の軸方向に流れてこれを回転させる。落差と流量変化によって羽根の角度を自動的に調節できる可動羽根のものはフロベラ水車として区別され、フロベラ水車は常に一定の角度の固定羽根のものを指す。	-	出力	200kW未満	○	S-004653	80 *	%	水車効率	標準規格による評価	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	$\eta = (1000 \times P) \div (g \times \rho \times Q \times H)$ 、 η : 水車効率[%]、 P : 水車出力[kW]、 g : 重力加速度[m/s ²]、 ρ : 水の密度[kg/m ³]、 Q : 流量[m ³ /s]、 H : 有効落差[m]	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	JEC4002:1992に準拠		
L-001173	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	水力発電	フランス水車(小水力発電用)	水を取り込むケーシングの中に羽根車(ランナー)を設置し、そこを流れる水の圧力により回転させる水車である。最も一般的な水車で、数10m~数100mの落差に広く使われている。	-	出力	200kW未満	○	S-004652	85 *	%	水車効率	標準規格による評価	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	$\eta = (1000 \times P) \div (g \times \rho \times Q \times H)$ 、 η : 水車効率[%]、 P : 水車出力[kW]、 g : 重力加速度[m/s ²]、 ρ : 水の密度[kg/m ³]、 Q : 流量[m ³ /s]、 H : 有効落差[m]	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	JEC4002:1992に準拠		
L-001177	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	地熱発電	温水熱源小型バイナリー発電設備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二次媒体を使うため、より低温の地熱流体での発電に適しており、地熱流体で温められた二次媒体の蒸気でタービンを回して発電する。生産井から地熱流体を取り出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸気化し、二次媒体の蒸気でタービンを回転させ発電する。二次媒体を温めた後の地熱流体は、還元井から地下に戻し、発電し終わった二次媒体は、凝縮器で液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器に送る。熱源として温水を利用する。	100℃未満、200V/220V	出力	3.0kW未満	-	S-004739	-	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、 P : 送電端出力[kW]、 Q : 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力=(発電端出力) - (作動媒体ポンプ、インバータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費電力)	環境省により独自に設定された方法	-	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度: 95℃以下、冷却水入口温度: 20℃以上		
						100℃未満、400V/440V	出力	3.0kW未満	-	S-004735	-	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、 P : 送電端出力[kW]、 Q : 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力=(発電端出力) - (作動媒体ポンプ、インバータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費電力)	環境省により独自に設定された方法	-	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度: 95℃以下、冷却水入口温度: 20℃以上		
								3.0kW以上6.5kW未満	-	S-004738	-											
								6.5kW以上45kW未満	●	S-004650	6.2 *											
								45kW以上100kW未満	○	S-004648	6.2 *											
								100kW以上200kW未満	○	S-004646	6.8 *											
								200kW以上300kW未満	-	S-004736	-											
								3.0kW以上6.5kW未満	-	S-004734	-											
								6.5kW以上45kW未満	●	S-004643	6.2 *											
								45kW以上100kW未満	○	S-004641	6.8 *											
								100kW以上200kW未満	○	S-004636	6.83 *											

別紙

No.	設備・機器等	クラス		L2-Tech水準	備 考
		条件	能力		
S-005220	BEMS (制御サービス・空調・熱源・中央方式)	空気熱源仕様	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすBEMSサービスであること。</p> <p>①冷水負荷熱量、冷水出口温度、外気温度、熱源機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量を計測できる機能を保有</p> <p>②上記①の計測粒度が1分単位以内であること</p> <p>③冷水負荷熱量、冷水出口温度、外気温度、を説明変数として、合計のエネルギー消費量(熱源機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量の合計)が最小となるような冷水出口温度を(過去の実績データに基づいて)自動で算出できる機能を保有</p> <p>④上記の算出結果に基づいて冷水出口温度を自動制御できる機能を保有</p> <p>⑤導入可能な施設が、限定されない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「BEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、BEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い中央方式の空調機を対象とした制御サービスを認証対象として設定した。文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記の通りとし、本リストでは下記の「要件0」及び「要件1」に基づいて水準を設定している。</p> <p>要件0(必須)：導入可能な施設が限定されない</p> <p>要件1：セントラル空調システム全体のエネルギー消費量が最小となる負荷熱量を自動で算出し、それに基づいて自動的にシステムを制御可能</p>
S-005219	BEMS (制御サービス・空調・熱源・中央方式)	水熱源仕様	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすBEMSサービスであること。</p> <p>①冷水負荷熱量、冷水出口温度、冷却水入口温度、外気温度、熱源機エネルギー消費量、熱源補機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量、冷却水ポンプエネルギー消費量を計測できる機能を保有</p> <p>②上記①の計測粒度が1分単位以内であること</p> <p>③冷水負荷熱量、冷水出口温度、冷却水入口温度、外気温度を説明変数として、合計のエネルギー消費量(熱源機エネルギー消費量、熱源補機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量、冷却水ポンプエネルギー消費量の合計)が最小となるような冷水出口温度を(過去の実績データに基づいて)自動で算出できる機能を保有</p> <p>④上記③の算出結果に基づいて冷水出口温度を自動制御できる機能を保有</p> <p>⑤導入可能な施設が、限定されない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「BEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、BEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い中央方式の空調機を対象とした制御サービスを認証対象として設定した。文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記の通りとし、本リストでは下記の「要件0」及び「要件1」に基づいて水準を設定している。</p> <p>要件0(必須)：導入可能な施設が限定されない</p> <p>要件1：セントラル空調システム全体のエネルギー消費量が最小となる負荷熱量を自動で算出し、それに基づいて自動的にシステムを制御可能</p>
S-004874	HEMS (情報提供サービス・家電全般)	-	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすHEMSサービスであること。</p> <p>①対象住宅全体の電力消費量を、30分単位以内で計測できる機能を保有</p> <p>②上記①において計測したエネルギー消費量と、他住宅で計測したエネルギー消費量を比較し、対象住宅全体のエネルギー消費量のランキング情報を表示できる機能を保有</p> <p>③上記②のランキング情報を、対象住宅におけるユーザー属性別※に表示できる機能を保有 ※地域別、間取別、家族構成別の3種いずれも</p> <p>④導入可能な住宅が、単一の住宅メーカーが供給する住宅に限定されない</p> <p>⑤導入の際にインターネット接続サービスへの加入が必要な場合、集合住宅向け全戸一括契約型へのサービス加入を前提としない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「HEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、HEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い家電全般を対象とした情報提供サービスを認証対象として設定した。文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記のいずれかとし、本リストでは「要件0」および「要件3」を対象とし水準を設定している。</p> <p>要件0(必須)：導入可能な住宅が限定的でない</p> <p>要件1：現状のエネルギー消費量に応じて省エネアドバイス、および目標の省エネ量が提供可能</p> <p>要件2：現状の光熱水道費に応じて節約アドバイス、および目標の節約額を提供可能</p> <p>要件3：エネルギー消費量が類似している世帯との比較情報の提供が可能</p> <p>要件4：過去のサービス利用履歴の情報に基づいて、より興味・関心の強い情報の提供が可能</p> <p>要件5：現状のエネルギー消費量が自身の平均的な消費量と比較して多くなったタイミングで、消費量が多いことを閲覧頻度が多い媒体へPush配信可能</p>
S-005188	内部熱交換最適化蒸留システム	蒸留塔が高圧部(濃縮部)と低圧部(回収部)とで物理的に分離しており一体型でないもの	-	<p>下記の①および②の条件を満たす蒸留システムであること。</p> <p>①高圧部と低圧部とで熱交換できる機能を保有</p> <p>②蒸留塔内部の熱分布を調整し熱交換率を最適化できる機能を保有</p>	<p>本設備・機器等は、個別受注設計生産されるため標準条件(試験条件、計算方法)を設定し、定量評価する方法はそぐわないと判断し、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、本設備・機器等として求められる機能要件をL2-Tech水準とした。</p>